

2 夢づくり協働推進事業の実施状況

<夢づくり協働推進事業>

部所名	No.	事業名	頁
地域政策部	1	安全・安心の備中 備中県民局管内の自主防災組織の育成、活性化支援	3 2
協働推進室	2	備中地域の広域観光コースの造成	3 5
地域政策部環境課	3	子ども環境学習推進プロジェクト (① ” 備中STYLE ” 環境体験学習ツアー事業)	4 0
	4	子ども環境学習推進プロジェクト (② 身近な川のエコ探偵団事業)	4 2
	5	びっちゅう環境と地産地消フェア	4 4
税務部	6	租税教育推進事業 (租税教育の開催)	4 8
健康福祉部	7	備中子育て晴れの国づくり (子育てカレッジ実現事業、大学子育て資源オープン化事業)	4 9
	8	備中子育て晴れの国づくり (備中子育て晴れの国交流会、協働子育て支援学会)	5 1
	9	備中子育て晴れの国づくり (親支援プログラム普及推進事業)	5 3
農林水産事業部	10	フードアクション備中プログラム	5 5
	11	里山保全活用協働事業	5 9
	12	井原青野地区における休止予定園の有効活用	6 2
	13	農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援事業	6 4
	14	担い手確保と需要期の出荷対応によるりんどう山地の活性化	6 6

<地域活力創出事業>

部所名	No.	事業名	頁
地域政策部	15	備中地域産業振興事業	6 7
協働推進室	16	「強み」を生かした備中地域の観光振興	6 9
	17	防災力・防犯力強化事業	7 2
地域政策部環境課	18	備中地域における小水力発電推進事業	7 4
健康福祉部	19	中山間地域支え合い安全安心推進事業 (地域における保健医療従事者育成支援事業)	7 6

<協働事業提案募集採択事業>

部所名	No.	事業名	頁
地域政策部	20	被害者の声を聴いてください ～シンポジウムとコンサート～	78
協働推進室	21	新見御殿町歴史探訪 ”まち歩き”と”土下座まつり拝観”そして”歴史講談”	80
	22	「備中玉島を綿で白くする」事業	82
	23	低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト	85
	24	高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)による聞き書き	88
地域政策部環境課	25	みんなでつくる！高梁川流域のエコ指標	90
	26	GREEN DAY 2011 ～2011国際森林年と高梁川の持続的な環境保全活動宣言～	92
健康福祉部	27	気づく つなぐ 地域で支える心の健康 ～うつ病 私たちでできること～	94
	28	出張型集団一時預かりサポートネットワーク形成事業	96
	29	虐待防止のための連続ワークショップ事業	98
	30	CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の実施	100

夢づくり協働推進事業の実施状況 1

事業名

安全・安心の備中 備中県民局管内の自主防災組織の育成、活性化支援

事業の概要

東日本大震災の発生を受けて、防災の重要性が高まりつつあり、大規模災害に対する地域防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体と連携し、自主防災組織の育成、活性化を支援し、住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
倉敷市中島地区の住民、 浅口市高齢者大学等	地域防災力向上のため、防災研修会を企画、実施。倉敷中島地区は防災訓練、炊き出し等と併せて開催された。
浅口市、里庄町	みんなで防災講座での会場手配、参加者募集
倉敷市	防災パネル展の会場設営、管理
県民局	防災講習会講座の企画・講師、パンフレット配布など

実施状況

1 「みんなで防災」講座の開催

「みんなで防災」講座は、自主防災組織の育成、活性化を目的に、市町と連携して研修会等を開催している。本年度は、浅口市と里庄町において実施。

(1) 浅口市（金光、鴨方、寄島の3会場）

浅口市においては、金光、鴨方、寄島の3会場で開催され、備中県民局協働推進室三宅参事が講師として風水害への備えについての講演を行った。

また、東日本大震災で被災地に派遣された消防士、保健師の支援活動報告も行われた。

①日 時：平成23年6月16日 } 19:00～20:30
 21日 }
 22日 }

②場 所：金光中央公民館、鴨方保健
 福祉会館、寄島サンパレア

③参加者：一般市民等400名
 (金光150名、鴨方150名、寄島100名)



(2) 里庄町

里庄町においては、備中県民局協働推進室三宅参事が、地域で防災に取り組むことの重要性について講演し、非常食の試食や災害時持ち出し品の展示もあった。

①日 時：平成24年3月10日 13:00～14:30

②場 所：里庄町川南公会堂

③参加者：里庄町川南婦人部等50名

2 防災講習会等

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、市町の町内会等の団体が行う防災講座や自主防災組織の研修会に、県民局防災担当参事が講師として出向き、災害事例の紹介、自主防災組織の重要性及び活動活性化などの必要性を啓発した。

・主な開催状況

- ・浅口市高齢者大学 50名
- ・東日本大震災支援活動報告・意見交換会
200名
- ・倉敷市中島地区防災体験会 150名



3 防災・危機管理先進地視察研修

防災施設の見学・体験学習通じ、市町及び県民局職員の防災・危機管理対策の資質向上、対応能力の向上を図った。

①日 時：平成24年3月7日

②視 察 先：人と防災未来センター
 (神戸市中央区)

③参加者：県民局、管内市町防災担当者
 31名参加



4 防災週間等の街頭啓発、防災パネル展の開催

(1) JR倉敷駅での街頭啓発

①日時：平成23年9月 1日 7:30～
平成24年1月17日 7:30～

②内容：防災グッズ各700セットを配布

(2) 防災パネル展

①日時：平成23年8月31日～9月 5日
：平成24年1月15日～1月21日

②場所：倉敷駅前商店街ビオス憩いの広場
倉敷市役所展示ホール及び各支所



成果・効果

- 1 住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すよう、住民の参加しやすい日程設定、わかりやすい講義内容など、参加者にあわせた会の開催に注力し、広く自主防災組織の重要性や自助、共助の重要性を説き、地域の防災力の向上に寄与した。
- 2 自主防災組織のない地区においては、今後の組織編成を考える契機として、また、既存組織においてはその活性化の重要性を認識させることが出来、地域の防災力の向上に寄与した。

夢づくり協働推進事業の実施状況 2

事業名

備中地域の広域観光コースの造成

事業の概要

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の文化遺産や様々な地域資源を掘り起こし、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」を造成し、商品化を進める。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中地域広域観光振興協議会	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の企画・協力
民間旅行事業者	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」に関するツアーの企画・運行
一般社団法人日本鉄鋼連盟 JFE スチール株式会社 西日本製鉄所倉敷地区	鉄に関するイベントの開催及びPR支援
岡山県酒造組合	広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」ツアー企画の支援、各酒蔵の観光受入体制整備の支援
管内の蔵元（備中杜氏の郷ツアーに関係した酒蔵）	各酒蔵での旅行者受入体制の整備、充実及び案内
吉備路ボランティア観光ガイド協会	広域観光モデルコース「鉄の径」に関連するスポットでのガイド活動
県民局（協働推進室）	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の支援・協力

実施状況

I 「鉄の径」について

1 知名度の向上

「鉄の径」のPRに資すると認められるイベントにおいてPRを行った。

(1) 「鉄の不思議教室」

と き：8月4日(木)

ところ：ライフパーク倉敷科学センター

主 催：一般社団法人日本鉄鋼連盟

共 催：備中地域広域観光振興協議会

参加者：倉敷市内の小学生(4～6年生)85家族

PR内容：「鉄の径」DVDの上映



教室の様子

(2) 「冬休み親子工場見学会」

と き：12月27日(火)・28日(水)〈各日とも午前・午後の計4回〉

ところ：JFEスチール株式会社 西日本製鉄所倉敷地区

主 催：同上

参加者：約350人(倉敷市、岡山市の親子が中心)

PR内容：学習用冊子「鉄の径」の配布

2 県外エージェントに対する「鉄の径」の情報発信

大都市圏の旅行エージェントに対して、「鉄の径」に関する旅行商品造成に必要な情報、ストーリー等をまとめた観光素材集、学習用冊子等を用いて情報提供を行い、旅行商品化へ向けた売り込みを行った。

6月 2日(木) ディスカバーウエスト意見交換会(瀬戸内児島ホテル)

9月16日(金) 九州地区旅行会社訪問(岡山・倉敷ぐるりんパス協議会)

10月25日(火) 大阪観光プレゼンテーション(ANAクラウンプラザホテル大阪)

12月20日(火) 東京観光プレゼンテーション(ホテルメトロポリタンエトモト) ほか

3 「鉄の径」のPRに資すると認められる旅行商品への支援

旅行エージェントが企画・催行する「鉄の径」のPRに資すると認められる旅行商品に対して土産品提供の支援を行った。

(1) 旅行企画・催行会社

日本旅行(ジパング倶楽部)

(2) ツアー名

～桃太郎と温羅(鬼)と鉄を巡る旅～

歴史ロマン漂う桃太郎伝説ゆかりの吉備路を訪ねて

(3) 催行日、参加者数及び出発地

12月6日(火) 19人 (大阪、神戸、岡山)

12月12日(月) 20人 (大阪、岡山)

12月15日(木) 27人 (大阪、神戸、岡山)

1月17日(火) 20人 (大阪、神戸、岡山)

合計 86人

(4) コース

吉備津彦神社、吉備津神社、鯉喰神社、備中国分寺、鬼ノ城

昼食場所：サンロード吉備路

※ツアー前に、旅行会社会員向けの情報誌に吉備路の「鉄」が紹介された。

(5) 料金

新大阪発着 13,800円

岡山発着 8,800円

(6) ツアーへの支援

備中地域の特産物を土産(試供品)として提供した。

「古墳ぜんざい」 86食

※100年以上の歴史を持つ総社特産の「玉どうふ」を用いたスイーツ。

(7) 旅行商品造成への協力

旅行商品造成を行う旅行エージェントに対し詳細情報の提供や地元との調整等を行った。

II 「備中杜氏の郷」(酒蔵めぐり)について

1 ツアーの実施

(1) 時期 平成23年12月17日～平成24年2月26日

(2) 内容 ①コース 7コース

日帰り 二蔵めぐりコース 6コース

一泊二日五蔵めぐりコース 1コース

②酒蔵数 12

④料金 8,500円(日帰り)～24,800円(宿泊あり)

(3) 旅行業者 両備ホールディングス(株)

(4) 参加者 6回実施 158名参加

(5) 各コースの概要等

酒 蔵 名	実施日	参加者数	ツアー料金 (各回とも) コース
丸本酒造 (浅口市) 森田酒造 (倉敷市)	12/17 (土)	25名	8,500円 丸本酒造(食)ー森田酒造ー美観地区
熊屋酒造 (倉敷市) 菊池酒造 (倉敷市)	1/14 (土)	20名	8,500円 熊屋酒造ー玉島魚市場・良寛荘(食)ー菊池酒造ー玉島町並みーふなおワイナリー
嘉美心酒造 (浅口市) 十八盛酒造 (倉敷市)	1/21 (土)	28名	8,500円 嘉美心酒造ー児島(食)ー野崎家旧宅ー十八盛酒造ー由加山
平喜酒造 (浅口市) ヨイキゲン (総社市)	1/28 (土)	35名	8,500円 岡山発 平喜酒造ーかもがた町家公園ー玉島(食)ーふなおワイナリーーヨイキゲンー農マル園芸 津山発 ※不催行 ヨイキゲンーふなおワイナリーー玉島(食)ーかもがた町家公園ー平喜酒造
三宅酒造 (総社市) 三千鶴酒造 (倉敷市)	2/4 (土)	21名	8,500円 三宅酒造ー備中国分寺ー矢掛(食)ー矢掛町並みー三千鶴酒造ーふなおワイナリー
白菊酒造 (高梁市) 三光正宗 (新見市)	2/26 (日)	29名	9,500円 白菊酒造ー高梁(食)ー道の駅鯉が窪ー三光正宗
三千鶴酒造 (倉敷市) 十八盛酒造 (倉敷市) 三宅酒造 (総社市) 白菊酒造 (高梁市) 三光正宗 (新見市)	2/18 (土)・19(日)	※不催行	24,800円 ①三千鶴酒造ー野崎家旧宅ー児島(食)ー十八盛酒造ー三宅酒造ー備中国分寺ー泊所(サントピア岡山総社) ②泊所ー白菊酒造ー高梁(食)ー吹屋・西江邸ー三光正宗



備中杜氏の郷ツアー風景 1 / 2 1 (嘉美心酒造)

2 ツアーへの支援

ツアー募集チラシの作成に関する経費について、上限25万円(対前年度比10万円減)で補助を実施した。

(受け入れる12酒蔵のうち、ツアーの催行が、過半数の7酒蔵に満たない場合は、補助金を半額にするという条件付き)

3 県外エージェントに対する「備中杜氏の郷」ツアーの情報発信

大都市圏の旅行エージェントに対して、「酒蔵めぐり」に関する旅行商品造成に必要な情報提供を行い、旅行商品化へ向けた売り込みを行った。

6月 2日(木) ディスカバーウエスト意見交換会(瀬戸内児島ホテル)

9月16日(金) 九州地区旅行会社訪問(岡山・倉敷ぐるりんパス協議会)

10月25日(火) 大阪観光プレゼンテーション(ANAクラウンプラザホテル大阪)

12月20日(火) 東京観光プレゼンテーション(ホテルトホポリタソートメント) ほか

成果・効果

- 1 「鉄の径」の知名度をより高めるため、一般社団法人日本鉄鋼連盟等の協力を得て、「鉄の径」のPRに資すると認められるイベントにおいてPRを行った。
- 2 「鉄の径」については、平成22年度に吉備路の「鉄の径」に関連するスポットをコースに組み込んだツアーを企画・催行した大阪の民間旅行会社が、23年度も引き続き企画・催行を行い、ツアー名に「鉄」の文字を入れた同様のツアー(4本)に86名の参加があった。
協議会では、「鉄の径」のスポットをめぐるツアーの魅力向上を図るため、備中地域の特産品を土産品として提供した。
- 3 「備中杜氏の郷(酒蔵めぐり)」ツアーは、民間旅行事業者が昨年度に引き続き主体性をもって取組み、企画・催行等のノウハウの蓄積が図られたことから、民間主導の旅行商品化への目途が立った。
- 4 各酒蔵においても、「備中杜氏の郷(酒蔵めぐり)」ツアーの継続的な実施により、見せ方・楽しませ方等のノウハウが蓄積されており、観光面での受入体制の整備が進んでいる。

来年度以降に向けての展開

1 鉄の径

今後は、旅行エージェントに対する旅行商品化への売り込みを行っていくとともに、学習観光・産業観光での活用が有効と考えられることから、関係するイベントでのPR等を継続的に行っていく。

2 酒蔵めぐり

今後は、継続的なPRを行うとともに、民間によるツアー造成を側面的に支援していく。

夢づくり協働推進事業の実施状況 3

事業名

子ども環境学習推進プロジェクト（①「備中STYLE」環境体験学習ツアー事業）

事業の概要

高梁市内の小学校2校100人の小学生を対象として、水島コンビナートの主要企業を訪問し、企業の環境対策や環境配慮製品の開発について学ぶとともに、瀬戸内海の景観や生物を素材として自然環境について理解を深めてもらい、環境問題を自分のこととして捉え、行動できる人材を育成することを目的に、備中版エコツアーを実施した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 (公財)水島地域環境再生財団	事業の基本的枠組みの企画立案、事業の委託 具体的事業内容の企画立案、事業の受託

実施状況

- 1 期 日 第1回 平成23年 9月30日（金）
第2回 平成23年10月28日（金）
- 2 場 所 倉敷市水島（水島コンビナート）及び瀬戸内海上
- 3 参加者 高梁市居住の小学生（4～6年生）及び引率教諭 100人（2小学校）
- 4 内 容

（1）水島コンビナートの主要企業を訪問し、事業場内を見学しながら、企業の環境対策や環境配慮製品の開発について学んだ。

第1回訪問先 JFEスチール（株）西日本製鉄所

第2回訪問先 中国電力（株）水島火力発電所



(2) 船上から瀬戸内海の景観の優秀性を体感しながら、海域の水質調査や透明度調査を行うとともに、六口島に上陸し、象岩の見学や海岸漂流物に関する問題について学んだ。



(3) 地産地消をテーマとした弁当を食べることで、地元食材を旬の時期に食することが輸送エネルギー等の低減にもつながり、地球温暖化防止の一助となることを学んだ。



成果・効果

地域の未来を担う備中県民局管内在住の小学生に、水島コンビナート立地企業の環境対策や瀬戸内海の環境問題を知る機会を実地に提供することで、高梁川の上流と下流の繋がりを感じてもらいながら、環境をキーワードとした様々な体験や学習を通じ、環境保全意識を身に付けさせることができた。

来年度以降に向けての展開

瀬戸内海での環境学習については、管内北部居住の小学生を対象に、これまで3年間実施してきており一定の成果が得られたことから、来年度以降は、森林をテーマに、管内南部居住の小学生を対象にしたツアーを実施する。

夢づくり協働推進事業の実施状況 4

事業名

子ども環境学習推進プロジェクト（②身近な川のエコ探偵団事業）

事業の概要

管内在住の小学生を対象として、居住地域内を流れる川において水生生物の調査や水質試験を行うとともに、河川ごみの実態調査を行う「身近な川のエコ探偵団」事業を小学校や環境団体等と役割分担しながら実施する。

- ・実施時期は6月～9月中で小学校単位で活動適地（5箇所程度）を選定する。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 環境保健センター 新見市立小学校 3校 高梁市立小学校 2校	事業の企画立案・実施・道具の提供 講師派遣（水質科）※ 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた現場管理 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた現場管理

※下記第4回では、岡山県環境保健センター水質科藤田研究員を講師として招き、調査等の指導等を実施した。

実施状況

募集を行ったところ、9小学校から応募があり、次の5校を選定し、事業を実施した。

第1回	平成23年6月14日（火）	新見市立高尾小学校	参加数17名
第2回	平成23年6月24日（金）	高梁市立松原小学校	参加数22名
第3回	平成23年6月28日（火）	新見市立神代小学校	参加数19名
第4回	平成23年7月15日（金）	高梁市立成羽小学校	参加数42名
第5回	平成23年9月29日（木）	新見市立塩城小学校	参加数16名

成果・効果

身近な川を教材として、パックテストをしたり、生き物を調査したりすることは、児童にとって強い印象を与え、環境に関心を持つ1つの機会となり、一定の効果を上げている。学校においても「総合的な学習の時間」の一環として、この事業に参加する学校も多いと思われる。

実施後には、この事業について参観日で報告したり、地域ボランティアとともにごみ拾いや清掃活動と行うなど環境保全意識が高まっている。



来年度以降に向けての展開

川での環境学習についてはこれまで長い期間実施してきたことから、複数年参加している学校も多く、また、自主的に環境への取り組みを実施している学校もある。

今までの事業は学校教育として環境学習に取り組むきっかけにはなってきたが、その役割は終了したと考えられる。

来年度は、夏休み期間等を利用して児童や園児等を対象に事身の回りにある題材や機材を利用した環境学習を充実する。水や空気・リサイクル・温暖化防止など環境にかかるテーマを3つ程度提案し、希望のものを2～3回実施する。

夢づくり協働推進事業の実施状況 5

事業名

びっちゅう環境と地産地消フェア

事業の概要

6月の環境月間に合わせ、広く一般の県民を対象に、地域における環境問題について一層の理解と認識を深め、環境保全意識の高揚と積極的取組を促進することを目的として、「びっちゅう環境と地産地消フェア～地域から見つめ直そう。環境のこと、食のこと～」を浅口市において開催した。

参加団体は、地元浅口市をはじめ、NPO法人等の環境関係団体の他、各種学校、農林水産関係団体の合わせて28団体におよび、ステージイベントや体験コーナーにおいてそれぞれの特色を活かした出し物や出展を行った。

また、新聞折込による広報の効果により浅口市近郊市町はもとより、倉敷市内からも集客が得られた。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
<実行委員会構成員> 備中県民局 浅口市 岡山西温暖化対策地域協議会 (財)水島地域環境再生財団 倉敷・総社温暖化対策協議会 ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク <ステージイベント> 浅口市立六条院小学校、高梁市立中井小学校、倉敷市立西中学校 吉備国際大 浅口市総合型スポーツクラブ <環境体験コーナー> おかやまエコマインドネットワーク、岡山環境カウンセラー協会、むかし遊び楽舎、アッケシソウを守る会、倉敷・総社温暖化対策協議会、自然エネルギー・環境協会、矢掛高、おかやま山陽高、岡山生涯学習インストラクター協会、浅口おもちゃ病院、三菱自動車工業、ノートルダム清心女子高、岡山県環境保健センター <地産地消コーナー> 寄島町漁業協同組合、鴨方町手延素麺生産者協議会、薫製倶楽部、中山精肉店、にいみ茶屋、農産工房蔵里	全体調整、事務局 地元調整 開催支援、出展 開催支援、出展 開催支援、出展 開催支援、出展 事例発表 寸劇、出展 オープニングアトラクション 出展 出展

実施状況

- 1 日時 平成23年 6月5日(日)
- 2 場所 浅口市ふれあい交流館サンパレア (浅口市寄島町16091-23)
- 3 主催 びっちゅう環境と地産地消フェア実行委員会
- 4 参加者 県民、事業者、行政関係者等約1,000人
くちらし>



5 内容

(1) ステージイベント

- ・小中学生による取組事例発表「我ら・エコチルドレン」
- ・吉備国際大学による備中地域ご当地キャラクターのエコシアター



(2) 環境体験コーナー

- ・海辺の生き物観察 (タッチプール)
- ・電気自動車の試乗体験
- ・廃油キャンドルづくり、紙すき体験
- ・残り布を使用したティッシュケースづくり
- ・環境すごろく

- ・古雑誌を使用したリサイクルコサージュづくり
- ・むかし遊び体験
- ・移動環境学習車さんよう号を使用した環境学習
- ・アッケシソウ保存の取組のパネル展示
- ・エコ生活のアイデアや太陽光エネルギーに関する展示
- ・おもちゃ病院の開設
- ・生物研究に関するポスター展示



(3) 地産地消コーナー

- ・遊んで学べる食育講座
- ・鮮魚、農産加工品、そうめん等の販売、チャリティーバザー



(4) その他

- ・「グリーンイベントガイドラインおかやま」に基づき実施した。
- ・カーボンオフセットを目的として、グリーン電力を購入した。
- ・公共交通機関の利用を呼びかけ、JR鴨方駅から会場間はシャトルバスを運行した。
- ・防災関係のグッズ及びパネルを展示した。
- ・東日本大震災義援金を募集し、東北3県物産販売した。
- ・観光パンフレットを配布した。

成果・効果

- 1 次代を担う小・中学生に環境をキーワードとした活動事例を発表してもらうことで、成人のフェア来場者に刺激を与え、環境保全活動に対する意欲を高めることができた。
- 2 環境関係団体や各種学校、農業関係団体など多方面の力を結集して、協働によるイベントを実施することができた。
- 3 輸送に必要なエネルギーに容量が少ない点で、環境への負荷が低いとされる地元産品に目を向けながら、フェア来場者に地球温暖化防止の取組を身近なものとして感じてもらい、日常のライフスタイルを見直すきっかけを提供できた。

来年度以降に向けての展開

6月の環境月間に合わせ、県民への啓発イベントを引続き行う。来年度に向けての留意点は次のとおり。

1 場 所

最寄駅からシャトルバスの運行を行ったにもかかわらず、自家用車での来場が大半であったことから、場所の選定に当っては、公共交通機関が利用しやすい点を重視することとする。

2 スケジュール

体験コーナーとホールでのステージイベントの時間が重なっていたため、ステージイベント開催時に来場者をホールにうまく誘導することができなかった。会場内での各催し物のアナウンス方法や来場者の動線を考えたスケジュールを検討する。

3 参加団体

参加団体が多く、全ての団体には十分な出展スペースを確保することができなかった。

また、テーマによっては来場者の関心を集められなかったコーナーものもあったことから、出展団体を絞ることも検討する。

夢づくり協働推進事業の実施状況 6

事業名

租税教育推進事業（租税教室の開催）

事業の概要

国及び市町の税務機関、税理士会等の税務関係団体並びに小・中学校等の教育機関と連携し、役割分担しながら、主として小・中学生を対象に租税教室を開催し、税金の意義や役割等についての正しい知識を習得させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図った。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
教育機関 倉敷税務署 税務機関(国、県、市町) 税務関係団体(税理士会等)	租税教室の時間、場所の確保等 全体調整、講師の養成研修等 講師の派遣、教材の提供(税務署) 講師の派遣

実施状況

備中県民局から講師派遣した租税教室

開催日	開催校	参加生徒数
平成24年1月19日	高梁市立富家小学校	5・6年生1クラス 16名
〃 1月27日	倉敷市立天城小学校	6年生 3クラス 94名
〃 2月2日	里庄町立里庄東小学校	6年生 2クラス 41名
〃 2月3日	新見市立矢神小学校	6年生 1クラス 13名
〃 2月7日	総社市立総社中央小学校	6年生 2クラス 70名
〃 2月8日	井原市立県主小学校	6年生 1クラス 16名

成果・効果

小・中学生に税金の役割や大切さ等を分かりやすく説明することにより、税金の重要性を理解させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図ることができた。

来年度以降に向けての展開

同様の活動を予定している。

夢づくり協働推進事業の実施状況 7

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 子育てカレッジ実現事業
(大学子育て資源オープン化事業)

事業の概要

これまでに実現してきた新見公立短期大学、岡山県立大学及び吉備国際大学における子育てカレッジでの協働の取組に引き続き参画した。さらに今年度は、倉敷市立短期大学において子育てカレッジが実現することとなり、大学子育て資源オープン化事業によるオープン行事をはじめ、学生も参加する親子交流や研修などの様々な取組がスタートした。

また、管内子育てカレッジの相互理解やつながりづくりを促し、ネットワーク化や情報発信に資するため、「おかやま子育てカレッジ備中県民局管内ネットワーク会議」を開催し、各カレッジからの参加者による活動内容等の情報交換や意見交換を行った。

協働の主体・役割分担

【新見公立短期大学、岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷市立短期大学】

協働の主体	役割分担内容
[大学等] ・新見公立短期大学 (幼児教育学科、事務局、学生) ・岡山県立大学 (保健福祉学科、事務局、学生) ・吉備国際大学 (子ども発達教育学科、事務局、学生) ・倉敷市立短期大学 (保育学科、事務局、学生)	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、 事業実施内容企画・検討、 広報、 事業への参加(知的・人的資源の提供) など
[市町村] ・新見市 ・総社市 ・高梁市 ・倉敷市	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、 事業実施内容企画・検討、 広報、事業への参加(特色ある子育て支援施策の展開) など
各地域の子育て支援関係者	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、事業実施企画・検討、事業への参加(子育て支援の質的充実) など
備中県民局(健康福祉部)	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加

実施状況

【新見公立短期大学】

運営委員会(7月、10月、12月、3月)、事務局会議(毎月)、評価委員会(3月)を開催して、事業計画の策定、実施内容の検討・準備、検証等を行った。

【岡山県立大学】

実行委員会（4月、7月、9月、11月、2月、3月）を開催して、事業計画の策定、実施内容の検討・準備、検証等を行った。

【吉備国際大学】

実行委員会（5月、6月、7月、10月、12月、2月）を開催して、事業計画の策定、実施内容の検討・準備、検証等を行った。

【倉敷市立短期大学】

1 実行委員会の立ち上げ及び開催

倉敷市立短期大学、市内子育て支援関係機関・関係者、倉敷市子育て支援課他関係課、備中県民局が参画した実行委員会を立ち上げ、子育てカレッジ開設に向けての事業企画の検討、事業計画の策定を行うとともに、5月、9月、2月に実行委員会を開催して取組内容の検証等を行った。

2 大学子育て資源オープン化事業の実施

子育てカレッジ事業の継続実施に向け、大学内はもとより地域に対し子育てカレッジの認識を高め実施事業の周知を図るためオープン記念行事を実施した。

(1)実施日 平成23年6月25日（土）

(2)場 所 倉敷市立短期大学体育館

(3)内 容 学生が参加して実施する親子交流(リズム体操、親子ふれあいパーク) 他



【備中県民局管内子育てカレッジネットワーク会議】

(1)開催日 平成23年9月5日(月)

(2)場 所 備中県民局会議棟

(3)参加者 備中県民局管内の子育てカレッジ関係者、関係市町村、県庁子ども未来課他

(4)内 容 各カレッジの活動状況の紹介、意見交換

成果・効果

倉敷市立短期大学では、実行委員会の取組により「倉敷市立短期大学子育てカレッジ」をオープンすることができ、学生も参加する親子交流や子育て支援に関する研修講座等に多くの方が参加している。

また、「にいみ子育てカレッジ」、「県大そうじゃ子育てカレッジ」及び「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」では、引き続き、大学の教員及び学生、行政、地域の子育て支援関係者の協働により、親子交流ひろばの運営や、研修・相談事業など様々な子育て支援の取組が行われており地域に根付いてきている。

さらに、ネットワーク会議の開催により子育てカレッジ同士の相互理解が深まった。

来年度以降に向けての展開

子育てカレッジの実績や効果を管内に波及させることにより、未実施大学等への働きかけや協働の取組への理解を引き続き広げていく。

夢づくり協働推進事業の実施状況 8

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 備中子育て晴れの国交流会
協働子育て支援研究会

事業の概要

子育て支援に関する「産」「学」「民」「官」分野の様々な人々が出会い、学び合うことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくりを進め、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ環境づくりを目指し「備中子育て晴れの国交流会」を開催した。

また、管内の子育て支援に関する大学等専門機関の研究者と実践者による「協働子育て支援研究会」を開催し、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
NPO法人子育て応援ナビぽっかぽか	現地見学の実施（第1回交流会）
NPO法人カンガルーの会（代表者）	講演、意見交換（第2回交流会）
川崎医療福祉大学医療福祉学科（教授） 吉備国際大学心理学科（特任教授）	研究発表、意見交換（協働子育て支援研究会）
地域子育て支援拠点関係者、NPO法人、 子育てボランティア、大学関係者、主任児童委員、 母親クラブ関係者、管内市町 等	活動事例紹介、受講、グループワーク等における意見交換、交流
備中県民局	交流会等の実施、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流

実施状況

【協働子育て支援研究会】

子育て支援に関して、2名の大学等専門機関の研究者等による発表を行い、研究者と実践者等とが近い距離で意見交換を行うことにより、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

- (1)日時：平成23年7月15日(金)
- (2)場所：備中県民局会議棟
- (3)内容：講演、意見交換
- (4)人数：35人



【第1回交流会】

管内において子育て支援に実績のあるNPO法人と協働し、子育て支援に取り組む者又は

関心のある者を対象とした取組事例見学会を行った。

あわせて、地元市町からの施策等の説明、「親育ちの支援」をテーマとしたグループワークを行い、子育て支援に関わる者のつながりづくりを推進するとともに、それぞれのスキルアップ及び課題解決への足がかりとした。

- (1)日時：平成23年8月22日(月)
- (2)場所：ひろば・ぼっかぼか（倉敷市地域子育て支援拠点）
- (3)内容：取組の紹介及び見学、グループワーク等
- (4)人数：29人



【第2回交流会】

小児科医として「子どもが親にあまえる」ことを通した親子の関係性のあり方を研究し、困難な心の状況にある親や子どもの支援に直接関わってこられた講師を県外から招き、講演や意見交換による学び合いと交流を行った。

- (1)日時：平成24年1月25日(水)
- (2)場所：備中県民局会議棟
- (3)内容：講演、意見交換、グループ交流
- (4)人数：30人



成果・効果

【協働子育て支援研究会】

- 1 普段なかなか接する機会のない大学等専門機関の研究者と知り合い、つながりづくりができた。
- 2 専門機関研究者の豊富な情報や広い視野からの研究、実践発表を聞くことにより、子育て支援関係者がこれまでの自己の取組を振り返り、今後の活動などに役立てていくきっかけづくりとなった。
- 3 研究の取組内容が、今後の行政施策を展開するための示唆に富んだものだった。

【備中子育て晴れの国交流会】

- 1 管内の子育てや子育て支援に関わる方々が集まり、講演・グループワーク・現地見学等を行って交流する機会を設けることにより、地域や立場を越えて情報が普及するとともに理解が深まり、つながりが広がりつつある。
- 2 参加者からは、以下のような感想が寄せられている。
 - ・他の施設を見学できる機会はないのでよかった。雰囲気や工夫点がすぐ手に取れて理解しやすかった。
 - ・他の施設の方と知りあえたので、今後の連携に活かしていきたい。
 - ・これからも自分の仕事に自信を持って携わっていきたいと思います。

来年度以降に向けての展開

今後とも継続して実施し、子育て支援の輪をより一層広げていく。

夢づくり協働推進事業の実施状況 9

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 親支援プログラム普及推進事業

事業の概要

全国で広く実施され、実績のある次の親支援プログラムの管内での普及を進めることにより、地域の子育て支援活動の更なる促進を図った。管内市町村に事業の概要等を説明、実施を働きかけたところ、今年度は管内2箇所で開催された。

- (1) ノーバディーズ・パーフェクトプログラム（「完璧な親なんていない」カナダ発の親支援プログラム）
- (2) お父さん応援プログラム（父親支援プログラム）
- (3)ペアレントトレーニングプログラム（育てにくさのある子どもの子育て支援プログラム）

協働の主体、役割分担

【倉敷市内でのノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施】

協働の主体	役割分担
NPO法人子育て応援ナビぽっかぽか	事業の受託、参加者募集、プログラムの実施（ファシリテーター・会場準備）、託児の実施
NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん（代表者）	プログラムの実施（ファシリテーター）
倉敷市子育て支援関係課	実施協議、事業実施場所等の推薦、参加者募集等
備中県民局	事業説明、実施協議等

【高梁市内でのペアレントトレーニングプログラムの実施】

協働の主体	役割分担
NPO法人color	事業の受託、参加者募集、プログラムの実施（トレーナー補助・会場準備）、託児の実施
（社福）笠岡市社会福祉事業会（笠岡学園 臨床心理士）	トレーナー等の派遣、プログラムの実施（トレーナー・サブトレーナー）
高梁市子育て支援関係課	実施協議、事業実施場所等の推薦、参加者募集等
吉備国際大学たかはし子育てカレッジ	実施協議、事業実施場所の確保
備中県民局	事業説明、実施協議等

実施状況

【倉敷市内でのノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施】

(1) 日時と内容（6回連続）

開催日	時間・場所	テーマ
平成24年1月19日(木)	各回 9:50～11:50 会場 倉敷物語館 託児 ひろば・ぽっかぽか	新しい出会い
1月27日(金)		子どもへの関わり方を考える～ほめ方しかり方
2月2日(木)		私がイライラするとき
2月16日(木)		親しい人との人間関係づくり
2月24日(金)		私の大切な時間
3月1日(木)		自分が持つ資源の確保と全体の振り返り

(2) 参加者 11名

【高梁市内でのペアレントトレーニングプログラムの実施】

(1) 日時と内容 (5回連続)

開催日	時間・場所	テーマ
平成24年1月25日(水)	各回 10:00 ～12:00 会場 吉備国際大 学内	オリエンテーション 子どもの行動をふり返ってみよう
2月8日(水)		子どもにあったプラスのほめ方を見つけよう
2月15日(水)		好ましくない行動を減らす～ほめるために待つ～
2月29日(水)		効果的な指示の出し方
3月14日(水)		まとめとフォローアップ

(2) 参加者 8名

成果・効果

【倉敷市内でのノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施】

子育て中の親が数人集まり、自分達の生活や子ども、親としての役割について安心して考える場を提供する「ノーバディーズ・パーフェクトプログラム」を実施しました。

2名のファシリテーターが、参加者の関心事から毎回のテーマを企画・準備し、必要に応じてテキストも活用しながら、参加者同士の話しを引き出し、交流を円滑に進めていきました。

回を重ねる毎に、「一人で抱えずに、みんなとアイデアや気持ちを分かち合えるっていいね」、「“まあ、いっか”の気持ちで接すると子どもと穏やかに過ごせるね」といった気付きの声が聞こえて来るようになり、6回の日程を好評に終了し、たくさんの学びと仲間づくりが出来ました。

その後も、継続して、受託団体の運営するひろば・ぽっかぽかに立ち寄る親子もあり、「他のお母さん達にもぜひ参加して欲しいプログラム」との感想が寄せられています。



ファシリテーターと主催者等で打合せ

【高梁市内でのペアレントトレーニングプログラムの実施】

発達が気になる子どもを育てている保護者の少人数の連続グループ学習として、「子どもにあった関わりを見つけましょう！ペアレント・トレーニング講座」を実施しました。

子どもの性格ではなく、行動に注目し、子どもにあった具体的対応の仕方（プラスのほめ方、効果的な指示の出し方）を学び、家庭での実践を通して、グループでトレーナー（講師）やアドバイザーも一緒に子どもにあった関わり方を考えました。

参加者同士、実践から得た成功体験や新たな気付きを話し合い、それぞれに工夫して取り組む姿が見受けられました。

市内で発達障がい児の支援に取り組むNPO法人に委託して実施いただくとともに、市の保健師や大学関係者にもご参加いただくことができ、プログラムで学んだことが、育てにくさのある子育ての一つの方法として継続して活用されていくことが期待できます。



トレーナーと主催者等で打合せ

来年度以降に向けての展開

管内の市町等に、各プログラムの内容や効果を伝え、検討・実施を働きかけていく。

夢づくり協働推進事業の実施状況 10

事業名

フードアクション備中プログラム

事業の概要

食料自給率向上45%運動を県民運動として推進するため、備中管内の農林水産業団体、消費者団体、商工・流通団体、教育・行政機関等131団体により設立された「備中地域食料自給率向上対策会議（会長：備中県民局長）」が中心となり、構成団体の連携強化とそれぞれの立場での主体的な活動を促しながら、生産力の強化による食料の安定供給の確保と食料自給率向上の必要性について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など食料自給率向上に向けた各種取組を展開した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
幹事会(19団体)	[県民局、市町、農協、消費生活問題研究会、食育推進会議 等] ・構成団体(各協働主体)との連絡調整、提言(活動内容等)検討
生産者・農林漁業関係団体(39団体)	[農協、漁協、森林組合、農業委員会、農業士会、生活交流グループ等] ・地元産食材のPR活動(各種イベント、食農教育活動の展開) ・6次化商品の開発・農商工連携、学校給食への地場産食材の供給 ・加工用米・麦・大豆等の生産拡大、耕作放棄地の解消
商工業・流通業者(27団体)	[商工会議所、商工会、酒造組合、卸売市場、おかやまコープ 等] ・県産食材・国産食材の利用拡大、 ・スーパー等での地産地消・6次化商品販売コーナーの常設 ・飲食店等での地元産食材を利用したメニューの開発 ・農商工連携による県産農林水産物の利用促進、米粉製品の販売促進
教育・行政機関(23団体)	[農政局、県民局、市町、教育委員会、学校給食会 等] ・意識啓発(パンフレット配布、イベント・出前講座の開催、HP開設) ・学校給食での地場産食材の利用促進や米飯給食の回数増加 ・日本型食生活の啓発、米粉製品の利用促進 ・地場産食材取扱店等の登録、展示会・商談会等の開催支援 ・農林水産物の生産振興、生産基盤整備、耕作放棄地解消、担い手育成
消費者団体(42団体)、県民・企業	[観光協会、婦人協議会、消費生活問題研究協議会、食育推進会議 等] ・日本型食生活、地産地消(旬の食材利用)の実践、ご飯食の回数増加 ・6次化商品、米粉パン等米粉製品の利用促進

実施状況

1 食料自給率向上啓発活動

(1) 食料自給率向上対策会議の活動促進と構成団体の連携強化

ア 備中地域食料自給率向上推進大会の開催(2月16日)

・活動事例の発表

(4名：耕作放棄地の活用、農家レストラン、米粉利用促進、加工品開発)

・講演：演題 「地場産品応援の店～緑提灯へ進め～」

講師 東京農業大学客員教授 丸山 清明 氏

・パネルディスカッション：「消費者へ地場産品を届ける手立て」

イ 「平成23年度食料自給率向上活動事例集」の作成・配布

(2) 地域メディア等を活用した啓発推進

ア 食料自給率向上月間における啓発活動

・倉敷駅西ビル大型テレビ Sky-TV でのCM放映 (10/1～11/30)

・啓発PRリーフレット1,000枚配布、食料自給率クイズ実施 (イオン倉敷店：10/1)

イ メディア等活用による自給率向上・地産地消運動の啓発

・FMくらしき：10/3～5、10/4、14、18 (20秒スポットCM)、2/6

・電光掲示板：通年

ウ 食料自給率向上をPRするためのパネル展示

・「びっちゅう環境と地産地消フェア」(浅口市：6/5：来場者1,000人)

・「大地産地消まつり」(天満屋リブ総社店：9/23～25)

・地産地消フェア「備中食べられえ市」(イズミゆめタウン倉敷店：10/22、23)

・「ベジフルセッション備中」(倉敷ジャム会場芸文館広場：11/5、6)

エ 出前講座の開催

・小中学生等を対象とした自給率向上出前講座の開催(1回)

・子どもたちが「自給率」を楽しみながら理解できる「紙芝居」の貸出し(5回)



2 「米粉生活」推進プロジェクトの推進

(1) 米粉を使った料理教室の開催

・夏休み親子料理教室(8/4：64人)

・クリスマスケーキづくり教室(12/7：18人)

・ひな祭りケーキづくり(2/23：36人)

・生活交流グループ等米粉料理教室の開催(32回：延べ約600人)

(2) 啓発キャンペーン等の実施

・米粉や米粉を使ったスイーツ等を積極的に開発、販売に取り組もうとするケーキ店や直売所と連携した米粉普及推進キャンペーン「HAPPY COME(米) WEEKS」の開催(2/24～3/18：25店舗)

・ラジオでのPR 6回(FM倉敷：7/7、22、9/7、2/24、RSKラジオ：2/20、2/29)

・イベントでのPR：おぎやっと21in倉敷(10/1)、岡山めぐり総合フェア(10/29)

・乳幼児～小学生を対象にした米粉レシピリーフレット「米粉キッズメニュー」作成

・各地域での米粉出前講座の開催8回(5/9、7/8、9/29、11/8、12/6、12/12、1/18、2/16)

・6次化グループ等による先進的な米粉及び米粉冷凍パン生地製造プラント見学(吉備中央町：10/14)



夏休み親子料理教室の様子



米粉レシピリーフレット



米粉出前講座の様子

3 直売所活性化プロジェクトの推進

より多くの人にとって利用しやすい直売所が実現できるよう、各直売所で取り組める項目を盛り込んだUDチェックリストを、直売所の現況調査（施設面・来場者動向）及びその結果を基に作成（委託先：NPO法人まちづくり推進機構：岡山市北区石関町）

4 レストランや小売店等での地場産食材・加工品等の販売・利用促進

- ・オーナーシェフ等のグループによる有機無農薬農産物生産者の訪問や農業体験等による地場産食材の利用推進（岡山市内レストラン10店舗：9/28、10/22）
- ・積極的に地場産食材を取り扱おうとする百貨店等に対する地場産農産物や加工品を紹介するとともに、農山漁村の魅力を伝えるPOP等情報を提供（マコモタケ、玄米餅等）



シェフと生産者の交流会の様子

5 地域特産品の販路拡大

(1) 著名シェフ、パティシエへの特産農産物PRと商品開発等

- ・柿沢安耶（パティスリーポタジエ：東京都）による有機無農薬にんじん（総社市）、アスパラガス（矢掛町）を使ったケーキの製造販売をPR（7月1～11日：天満屋倉敷店）
- ・奥田政行（アル・ケッチャーノ：山形県）石塚伸吾（グランクリュ：東京都）等のシェフ、パティシエの産地訪問や生産者との交流をコーディネート
- ・地元パティシエ（10人）と連携し地場産食材を使ったケーキを製造販売（11/5～13）
- ・アンテナショップ（宝塚市）を活用した地域特産品のPR（8月～3月：計12回）
- ・関西地域のイベント参加による地域特産品のPR（9月19日、10月6日：大阪市）

(2) 関西方面に対する特産農産物等PR

- ・料理研究家とのタイアップにより、宝塚市で備中地域の特産品を活用した料理教室を開催し、「食」に興味のある層へ特産品等を紹介するとともに、ブログを活用したPRを展開（1/18～28：11回：約30人）

(3) 加工品開発セミナーの開催と商談会への参加

- ・農業者、加工グループを対象として、商品価値の高いドライフルーツづくりのセミナーを開催（7/29：高梁市：42人）
- ・「龍の仕事展」（倉敷市）で、Bijin-J（果汁入りスティックゼリー）、高梁紅茶、弥高こんにゃく、豪溪福神漬、お米くっきー（新見市）、米粉と山羊乳のシュークリーム（新見市産）等を展示販売（9/17～25：倉敷市アイビー学館）



料理研究家による特産品PR



料理研究家によるメニュー提案



全国ふるさと観光物産展の様子

6 各地域の特色を生かした地産地消フェアの開催

フェア・展示会名称	月 日	場 所	来場者数
備中環境と地産地消フェア	6月5日	浅口市寄島(サンパレア)	約 1,000人
大地産地消まつり	9月23~25日	総社市門田(天満屋リブ総社店)	約 6,500人
J A阿新まつり	10月15、16日	新見市高尾(JA阿新)	約16,000人
備中岡山たべられえ市	10月22、23日	倉敷市笹沖(イヅミ倉敷サブ店)	約15,000人
岡山めぐり総合フェア2011	10月29日	岡山市北区北長瀬(岡山ドーム)	約20,000人
延べ 5回		来場者数	約58,500人

7 女性の視点や職能を生かした食と農のPRと地域活性化

- ・地域資源の発掘と結び付け、さらにはホームページによる情報発信を通じた中山間地域の活性化を推進(高梁市川上町:コーディネーター永田麻美:8/30、31 11/7 3/13)
- ・体験型食農プログラムの4講座の実施及び啓発冊子作成

成果・効果

- 1 食料自給率向上45%運動の気運が高まった。
- 2 米粉・米粉製品の普及・活用促進が図られた。
- 3 備中地域特産農産物の新たなPR方法等により関心が高まるとともに需用拡大が図られた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 1 1

事業名

里山保全活用協働事業

事業の概要

日常生活と密接な関わりをもって継続的に管理されてきた里山林は、生活様式の変化や都市化の進展により次第に放置され、荒廃が進んでいる。

一方で、最近の地球温暖化防止や生物多様性など森林のもつ役割への関心の高まりから、身近な自然である里山に目を向ける人々が増え、自然に親しみふれあいを求めるとともに、美しい里山の姿を取り戻そうとする取組が行われている。

こうした取組を推進するため、「保育のつどい」等による森林体験学習や、施業技術の指導を行うとともに、里山保全や竹林整備などの活動に対し、活動経費の支援及び資機材の貸出等を行った。

1 ゆめ・みらい・おかやまの森づくり推進事業

一般県民等を対象とした「保育のつどい」や「竹林の整備」等を開催し、森林・林業の重要性について理解を深めた。

2 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

里山グループ、企業等が自ら企画・実施する「森づくり活動プラン」を広く募集し、里山林の保全活動等に対し、活動経費の一部を助成した。

協働の主体・役割分担

1 ゆめ・みらい・おかやまの森づくり推進事業

協働の主体	役割分担内容
各地域の美しい森づくりの会、NPO法人	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の企画・立案 ・参加者の募集・連絡調整 ・施業技術の指導
一般県民、学生ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・森林保全活動や竹林の整備への参加
真備美しい森管理運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への支援・協力
県民局（森林企画課、地域森林課）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の指導・助言 ・施業技術の指導 ・活動経費の助成

2 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

協働の主体	役割分担内容
地域住民や企業等の里山保全グループ	・里山の保全、活用
市町(倉敷市、早島町、里庄町、矢掛町)	・里山保全グループとの連絡調整
県民局（森林企画課、地域森林課）	・里山整備計画の指導 ・施業技術の指導 ・活動経費の助成

実施状況

1 ゆめ・みらい・おかやまの森づくり推進事業

(1) 活動グループ

- ① 倉敷地域森づくりの会（事務局：総社市）
- ② 井笠地域美しい森づくりの会（事務局：笠岡市）
- ③ NPO法人 フォレストフォーピープル岡山（事務局：高梁市）
- ④ 阿新地域美しい森づくりの会（事務局：新見市）

(2) 活動内容

1. ドングリポット苗木の育成



2. 植樹のつどい



3. 保育のつどい（間伐）



4. 学生ボランティアによる竹林整備



(3) 活動の回数及び参加人数

- ① 活動の回数 39回
- ② 参加人数 1,455人

2 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

(1) 活動グループ

- ① 北面竹炭同好会（倉敷市連島町矢柄）
- ② 水江里山ふれあい会（倉敷市水江）
- ③ 藤森運輸株式会社（倉敷市児島田の口）
- ④ 丸五ゴム工業株式会社（倉敷市上富井）
- ⑤ 早島さくら千年委員会（都窪郡早島町早島）
- ⑥ シャープタカヤ電子工業株式会社（浅口市里庄町里見）
- ⑦ 高岡地区山王里山保全会（浅口郡里庄町里見）
- ⑧ 立花容器株式会社（小田郡矢掛町浅海）

(2) 活動内容

1. 竹林の整備



2. 伐採木を利用したヒラタケの植菌



3. 遊歩道の整備



4. 植樹活動



(3) 活動の回数及び参加人数

- ① 活動の回数 109回
- ② 参加人数 1,406人

成果・効果

- 1 松くい虫の被害や放置竹林等によって荒廃が進んでいる里山を守り育てて行こうという取組が各地域へと広がりを見せてきている。
- 2 里山保全という共通な目標を持って活動したことで、地域住民間に連帯感が生まれた。
- 3 実体験ができる場所の提供や、技術指導等を行うことで、企業・団体等の里山保全活動への参画を助長するとともに、森林・林業への関心と理解を深めることができた。

来年度以降に向けての展開

各地域に組織された「美しい森づくりの会」は、これまで県の主導により活動してきたが、来年度からは、基本的に県の関与を無くし、新たに設置が計画されている「県民参加の森づくり推進協議会（仮称）」が推進母体となって、自主的な活動を行える組織に限定して活動経費の支援を行う予定となっている。

夢づくり協働推進事業の実施状況 12

事業名

井原市青野地区における休止予定園の有効活用

事業の概要

青野地区は、かつてはベリーAでぶどう産地であったが、植栽年数も古く、傾斜地が多く、担い手の高齢化が問題となっており、今後、栽培休止予定園の多発が危惧される。

そこで、JAぶどう部会員やJA、市などと協働して、今後の意向調査と園の栽培現状の把握と行い、栽培休止の予定園を休止させないように、ぶどう部会員や地元の新規栽培希望者に栽培を継承し、ぶどう園の存続と産地の維持を図っている。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
井原市ぶどう部会、 JA岡山西、井原市、 県・普及センター職員	事業の実施主体 事業の運営支援、協力 事業の運営支援、協力

実施状況

1 ぶどう産地の園地、栽培者の実態調査の開催

部会員が中心となり、部会員の栽培意向調査と、栽培休止意向の園を調査し、とりまとめを行い、その結果をもとにJA、市、県と協働で会議を開催し、労働支援組織の活用や栽培休止予定園の栽培継承方策について検討した。

(1) 休止予定園の実態調査と栽培継承について

部会員に、栽培意向調査を行い、休止予定園のリスト化を行い、栽培希望者を募り、現地でのマッチングを行った。

(2) 継承労働支援組織の活用について

前年に設立した労働支援組織は、会員30名(前年：29名)となり、農業者10戸(13戸)の栽培支援を行い、支援時間は1,972時間(1,029時間)となり前年の約2倍近い利用となった。

(3) 新規参入者の研修受入について

新規栽培希望者6人を部会役員の現地に案内し、1名を農作業体験研修が受講できるように協働した。

2 労働支援組織への栽培技術指導

労働作業を担う支援組織のサポーターへ栽培技術の指導を行い、現地で役立つように技術指導を行っている。

3 立冬以降に出荷するぶどうの栽培実証

井原市ぶどう部会全体ではあるが、出荷時期を遅らせるなどの遅出し栽培技術の実証を行った。

成果・効果

- 1 労働支援組織を活用することでぶどう栽培者の労働力軽減ができた。
- 2 栽培希望者と栽培休止予定園とのマッチング（10組、152a）することで、栽培の継承ができて、栽培面積の減少を抑えることができた。
- 3 冬ぶどうを売り出すこと（約3.4t）で、特徴あるぶどう産地のブランド化を進めて、多様な消費者ニーズに対応し、ぶどう産地の復興、活性化に寄与できる。

来年度以降に向けての展開

- 1 今度とも栽培継続ができない園地の発生が見込まれ、継続して園地の実態調査と栽培希望者のマッチングを継続する。
- 2 冬ぶどうの栽培実証を継続し、産地化をすすめ、出荷量を増やしブランド化をすすめ、産地の活性化を進める。

<参考>



遮光資材による遅出し出荷実証



労働支援組織への技術指導



労働支援組織との反省会（11/29）



栽培希望者へ現地案内（11/29）

事業名

農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援事業

事業の概要

高梁地域では、平成21年度から産地に位置する加工グループがピオーネの一次加工品(シロップ漬け、干しぶどう)の製造に取り組んでおり、地元菓子業者が新たな商品開発に取り組んでいる。23年度は年間通して業者に供給できる量を製造していく体制を整えるため、加工機器の整備を進めるとともに干しぶどうの製造技術の向上を図った。また、原材料のピオーネの供給体制を検討し、加工仕向け用の確保に努めた。

協働の主体・役割分担

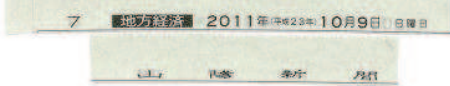
協働の主体	役割分担内容
方谷の里農産加工部(加工組織)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピオーネシロップ漬け及び丸ごと干しぶどうの製造 ・加工仕向け用の省力小房づくり ・原材料供給体制づくりの検討 ・地域特産物の活用検討、新商品試作研究
びほく農協ピオーネ生産部会高梁支部(生産組織)	
備中高梁ブランド推進協議会(農商工連携組織)	

実施状況

1 ピオーネ加工品の製造体制整備

(1) 乾燥機の導入

方谷の里農産加工部はピオーネ一次加工品の製造に取り組んでいるが、年間を通して供給できる量を製造するため、単市事業を活用し電気式乾燥機を新たに増設した。従来から所有する灯油式乾燥機と併せ2台で干しぶどう製造に取り組める体制が整った。



(2) 干しぶどう製造技術の向上

品質の高い干しぶどうの製造に向け焼成カルシウムによる殺菌処理を加えた。また、選別作業を徹底させることで粒のばらつきをなくし、大粒で甘い干しぶどうの提供が可能になった。



できあがった干しぶどうは小袋での販売もしており、好評な売れ行きを見せている。

干しぶどうの個包装

山陽新聞に干しぶどう加工の様子が掲載された

2 原材料供給体制づくり

(1)加工仕向け用省力小房づくり

ピオーネ部会高梁支部の3戸が1本ずつ小房づくり栽培を行い加工仕向け用として提供した。これにより230kgが干しぶどうの原材料となった。



小房に仕立てた房

(2)原材料供給体制の検討

方谷の里農産加工部、JA(生産部会)が干しぶどう用ピオーネの供給体制について検討し、規格外品だけでなく出荷品の提供も受けることができるよう話し合った。

3 地域産物の活用検討会(特産品づくり研究会)の開催と菓子業者による商品開発

(1)業者によるピオーネ一次加工品を使った商品開発

市内の和菓子店がシロップ漬けを活用した「ピオーネゆべし」を地元高校生とコラボして開発し販売を開始した。また、洋菓子店では干しぶどうをカップケーキに入れた「まるごとピオーネ」が人気商品として定着した。

どちらも、方谷の里農産加工部がピオーネの一次加工品を業者に卸しており、農商工連携により開発された商品である。

(2)新たな商品開発に向けた検討

ピオーネ以外の地元農産物(小豆「夢大納言」、乾燥トマト)を活用した商品開発について検討会を開催した。小豆「夢大納言」を使った商品開発については市内の5事業者が取り組み、10品目の新商品が誕生した。

また、乾燥トマトは高梁B級グルメとして売り込んでいる「インディアンマト焼きそば」に活用できないか試験中である。



和菓子店がシロップ漬けを使って新商品を開発



干しぶどうを使用したカップケーキは人気商品



市内の業者が連携して小豆「夢大納言」を使って商品開発に取り組んだ状況が新聞で紹介

成果・効果

- (1)菓子業者が農産加工グループから一次加工品を原材料として買い入れる仕組みができ、農商工連携による商品開発の体制が確立できた。
- (2)加工仕向け用原材料の確保について、ピオーネ生産者が加工仕向け用の樹を決めて栽培する動きが出てきており、規格外品以外のピオーネを一定量確保できる体制が整った。
- (3)地域産物を活用した商品開発への意欲が高まり、夢大納言小豆を使った新たな商品が誕生するなど農商工連携の取組が広がっている。

来年度以降に向けての展開

- (1)開発した商品が高梁地域を代表する土産品となり、定着するよう販路の拡大・PRを行う。
- (2)農業者と商工業者の連携が継続するように引き続き情報交換を密に行い、新たな特産品開発に向けた活動を展開する。

夢づくり協働推進事業の実施状況 14

事業名 担い手確保と需要期の出荷対応によるりんどう産地の活性化

事業の概要

阿新農協花卉部会りんどう生産部が主体となり、阿新農協、新見市、普及センターが一体となって活動することにより、担い手の確保や新技術の普及を進め、岡山県下1位の産地である新見地域の立場をより一層強化していく。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
阿新農協花卉部会りんどう生産部	阿新農協、全農おかやま：出荷、販売、PR活動 新見市：補助事業対応 新見地域農林漁業担い手育成対策協議会：就農準備講座主催 普及センター：技術支援、実証ほ運営

実施状況

- 1 新規生産者の確保
就農準備講座りんどうコースを年5回開催した。定年帰農を志す人を中心に9戸が受講し、りんどう栽培の一連の流れを体験した。(5月～9月)
- 2 需要期に対応した品種の栽培促進
新規定植と需要期に対応した品種の定植を推進した。また、新オリジナル品種である、おかやま夢りんどう早生2号、中生の生育調査を行った。
- 3 実需者へのPR活動
主な出荷先である大阪鶴見花き市場でPR活動と仲卸業者との意見交換を行った。
- 4 新技術の実証、普及
桃色のりんどうをハウスで加温促成栽培して開花期を前進化させ有利販売を図った。また、連作障害対策として軽量安価な檜・杉粉碎樹皮を培土としたコンテナ栽培を実証した。

成果・効果

平成23年度は2戸の新規生産者を確保できた。また、約57千株の新植があった。そのうち半分程度が需要期にあった品種となった。新見市単市のりんどう苗に対する補助により、新見市からも大きい後押しを得ることができた。

PR活動により新たな需要を掘り起こすとともに、実需者との意見交換を通じて、求められるりんどうの品質、量、時期について生産者の理解が深まった。

実証により桃色のりんどうを希少な時期に出荷でき、有利販売と労力分散ができた。コンテナ栽培によるハウスの有効活用の可能性が確認できた。

来年度以降に向けての展開

実需者からの需要にまだ応え切れていないため、今後も新規栽培者、新規定植株数の増加を目指していく。

りんどう専作経営を指向して規模拡大を行う若い生産者がおり、規模に応じた省力化技術の導入を支援していく。

地域活力創出事業の実施状況 15

事業名

備中地域産業振興事業

事業の概要

備中地域の地域資源を活用して開発した特産品等の、販路拡大が進まないなどの課題に対して、アドバイザーによる商品のブラッシュアップ、見本市への出展などによる販路開拓支援等により、売れ筋商品化を図った。

また、地域づくり団体、商工団体等と連携・協働し、備中局管内の様々な業態の企業等を一堂に紹介する企業展を開催し、個々の企業等の商品・製品・技術力をPRした。その際、学生をスタッフとして参加させることで地場産業への理解を深めさせた。加えて、参加企業等による交流の場を設け、異業種間のネットワークを構築することで新たな商品開発・事業拡大へのきっかけづくりとなった。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中県民局管内の商工団体等	事業参加者の募集等への協力
財団法人岡山県産業振興財団	備中地域ならではの特産品等の売れ筋商品化における専門家派遣、展示商談会への出展の実施
一般法人水辺のユニオン	企業展の開催及び異業種交流の推進
県民局（協働推進室）	各種広報媒体を使ったPRの実施、プレスへの連絡など

実施状況

1 備中地域ならではの特産品等の売れ筋商品化〔取組事業者数：23〕

- ・専門家派遣

- パッケージデザイン、ネーミングの一新、商品のブラッシュアップ、経営戦略の見直し、販路の開拓等

- ・県内見本市（「おかやま新商品フェスタ2012WINTER」1月開催）と県外（東京都）見本市（「グルメ&ダイニングスタイルショー春2012」2月開催）に出展

- ・各種広報媒体を用いて事業者のPRを実施

- TSCテレビ特番、2月19日（日）12:00～12:30放送等



専門家派遣



新商品フェスタ



グルメ&ダイニングスタイルショー

2 企業展の開催及び異業種交流の促進

- ・企業展「龍の仕事展」を倉敷アイビースクエア内にて開催
31企業等が参加、期間中（9月17日～25日）の来場者数：約8,500人
学生をスタッフとして参加させて地場産業への理解促進
- ・参加企業等による異業種間のネットワークを構築



実行委員会



龍の仕事展



交流会

成果・効果

事業者が経営センスを得ることにより、積極的な商談実施による販路の拡大、全く新たな視点からの販売戦略の構築、商品の品質改善などの成果が見られた。

1 専門家派遣によるブラッシュアップ

- ・瀬戸の灰干し：贈答品としての販路拡大に向け、パッケージデザイン、ネーミングを一新する取組に着手
- ・い草製品：キオスクでの試験販売を実施

2 見本市への出展

1月開催した新商品フェスタ（商談成立・見積依頼11件）、2月開催のグルメ&ダイニングスタイルショー（商談成立・見積依頼98件）のほか、出展企業同士の業務提携もみられた。

来年度以降に向けての展開

引き続き当該事業を行うに当たり、マスコミへの積極的な広報の実施、売れ筋商品化する企業の掘り起こしなどを行うとともに、商工会議所・商工会、農業団体、企業等から産業振興に関するニーズを聴取し、効果的な事業の実施を図る。

地域活力創出事業の実施状況 16

事業名

「強み」を生かした備中地域の観光振興

事業の概要

「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体に、備中地域観光の「強み三素材」として「まちなみ」、「麺」、「酒」を新たに掘り起こし、これらを活かした広域観光ルートを設定することにより備中地域の観光の魅力をさらに向上させ、全国へ向けて発信するとともに、倉敷駅北の大型商業施設への買い物客等に対して売り込みを行い、買い物客を備中管内全域へ誘導する施策を行う。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中地域広域観光振興協議会	備中地域観光の「強み三素材」のPR
マスコミ	備中地域観光の「強み三素材」の紹介番組・広告の制作
三素材に関するの店舗、酒蔵	三素材の魅力向上、情報発信
市町・商工会議所	地元にある三素材の魅力向上、情報発信支援
県民局（協働推進室）	備中地域観光の「強み三素材」の情報発信

実施状況

1 倉敷・備中エリア観光情報誌 B!chu の配布

備中エリアの「町並み」、「麺」、「酒」の魅力を紹介する観光情報誌を倉敷駅北の大型商業施設、JR 駅等に設置・配布した。

配布開始日：平成 23 年 1 月 1 月

購入部数：4 万部（初回 2 万部、追加 2 万部）

主な配布先：アリオ倉敷・三井アウトレットパーク倉敷(5,250部)、JR 駅(4,200部)、観光案内所(3,305部)ほか



観光情報誌 B!chu

2 ウェブサイトを通じた情報発信

読売新聞のHP内のサイト「新おとな総研」に旅行記事を4回シリーズで掲載。

第1回 三宅酒造、ヨイキゲン、菊池酒造 (7,648)

第2回 倉敷美観地区、森田酒造 (5,909)

第3回 玉島、矢掛の町並み (3,199)

第4回 笠岡ラーメン、手延べ麺、インディアントマト焼そば (4,358)

4回合計
21,114回

※()内は、H23.12.28~H24.1.31の間のアクセスログ数

掲載期間：平成 23 年 1 月 28 日～平成 24 年 3 月 31 日

3 ポスターの制作・掲出

備中地域の「町並み」、「麺」、「酒」の魅力を訴える3連ポスターを300セット作成し、倉敷駅北の大型商業施設、JR 駅等に掲出した。

掲出先：三井アウトレットパーク倉敷等大型商業施設、JR 駅(岡山・倉敷・福山・姫路ほか)、高速道路SA・PA、道の駅、市町、観光案内所、岡山空港、宿泊施設等



町並み



麺



酒

4 情報誌「レディア」への記事広告掲載

山陽新聞発行の女性向け情報誌である「レディア」に記事広告として「備中新発見！」シリーズを掲載し、「町並み」、「麺」、「酒」の魅力を県内に向けて発信した。

発行日：平成23年8月25日麺特集、9月8日町並み特集、9月22日酒特集

5 情報誌「K i T e N a 倉敷・備中」への記事広告掲載

ビザビリレーションズが発行する「K i T e N a 倉敷・備中」に記事広告として「町並み」、「麺」、「酒」のPR記事を掲載し、三素材の魅力を県内外に向けて発信した。

販売エリア：中四国地方、近畿地方

内 容：アウトレット特集

その他の記事広告：・「鉄の径」のPR記事

・鉄道を利用して備中地域の観光スポットを巡るルートのPR記事

・笠岡諸島の観光スポットのPR記事

発行日：平成24年3月25日

6 テレビ特別番組「V o i c e 2 1」の制作

放送局：山陽放送

内 容：「町並み」、「麺」及び「酒」に関すること

放送日：平成23年12月14日

7 FMラジオ番組「ステーションらんでぶ～SP」の制作

放送局：岡山エフエム（ネット：FM山陰、FM香川、FM高知）

内 容：「町並み」、「麺」及び「酒」に関すること

放送日：平成23年11月5日・12日・19日・26日（計4回）

8 新聞媒体によるPR広告

新聞社：山陽新聞社（全県版）、中国新聞社（備後地方版）

内 容：「町並み」、「麺」及び「酒」に関すること

掲載日：平成24年1月15日（日）朝刊

成果・効果

- 1 備中観光の「強み三素材」を新たに掘り起こし、初年度の取組として県内外に向けて、積極的にPRを行った結果、知名度が向上しつつある。
- 2 倉敷駅北の大型商業施設等に設置した観光情報誌は大好評であり、観光情報誌を片手に倉敷美観地区を歩く女性観光客も見受けられるなど、倉敷駅北口の買い物客を倉敷美観地区等に誘導する方策として効果があった。

来年度以降に向けての展開

今後は、備中観光の「強み三素材」の魅力の情報発信と合わせてアウトレットモール等の買い物客を備中エリアの観光スポットへ誘導する具体的な取組を実施する。

地域活力創出事業の実施状況 17

事業名

防災力・防犯力強化事業

事業の概要

1 東日本大震災に関する情報交換会の実施

東日本大震災の発生以来、管内市町及び県民局では、様々な職員の派遣を実施してきており、さらに岩手県遠野市にボランティア拠点を設けた倉敷市、AMD Aと連携した総社市など独自の支援を行う団体も出ている。

こうした状況を踏まえ、派遣職員の活動報告をもとに、被災地の現状や課題等を踏まえた災害支援の在り方について意見交換するとともに、県民に災害対応の重要性を啓発し、地域防災力の強化に努める。

2 地域の連帯感・きずなづくり支援モデル事業

地域社会で行われる高齢者訪問や各種スポーツ大会等、住民が多数参加し、地域社会の連帯感・きずなづくりにつながる取組を促進する。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中県民局管内市町	派遣職員の活動報告に対する協力
ボランティア、NPO等	現地での活動内容を作成する「報告書」へ寄稿
県民局（協働推進室）	報告書の作成、情報交換会の開催 等

実施状況

(1) 支援活動報告書の編集、発行

大震災発生後、被災地には備中県民局管内から多くの自治体職員が派遣され、市民ボランティアも多数駆けつけた。

- ・管内市町と編集委員会を設け、報告書を刊行（11月14日）
- ・市民ボランティア19人を含む133人が執筆
- ・図書館や管内市町、社協等に配布

(2) 支援活動報告・意見交換会の開催

- 「東日本大震災支援活動報告・意見交換会」を開催（11月22日）
 - ・山口大学 瀧本准教授の講演
 - ・ボランティア・派遣職員と講師による活動報告・意見交換

(3) 反響

- ・朝日新聞等各紙で紹介
- ・官庁速報に「震災支援活動の報告書刊行＝被災地での経験生かし一岡山県備中県民局」として紹介
- ・テレビせとうち、FM岡山で紹介
- ・月刊ガバナンス3月号への掲載



支援活動報告・意見交換会の様子



朝日新聞(12月5日)の掲載記事

成果・効果

(1) 自主防災組織の育成、強化

大震災に衝撃を受け、防災に取り組み始めた地域では、本報告書をもとに防災研修会を行い自主防災組織結成等を進めている。

(2) 防災教育への活用

防災に関する全校生徒集会を開催する学校の教材として報告書が活用された。

(3) 防災意識の高揚、震災支援

県民からは被災地の状況がよくわかり、災害を再認識した管内市町からは支援活動の意義を明確にできた等と評価されている。



玉島北中学校防災生徒集会(12/14)の様子

来年度以降に向けての展開

(1) 震災支援と防災について、大震災を理解し(学び)、忘れないこと(伝えること)の重要性を県民に啓発する。

(2) 時間が経過するのに従って変化する震災支援活動の記録として、その活用を行政関係者へ呼びかけていく。

地域活力創出事業の実施状況 18

事業名

備中地域における小水力発電推進事業

事業の概要

備中県民局管内の高梁川を中心とした豊富な水資源のエネルギー利用は、太陽光と並び中山間地域におけるエネルギーの地産地消やスマートコミュニティの構築、災害時の最低限の電力の確保等を進める上で、有用な資源である。

そのため、高梁地域を中心にクリーンエネルギーである小水力発電の適地及び地域活力創出のための活用法を調査・検討した。

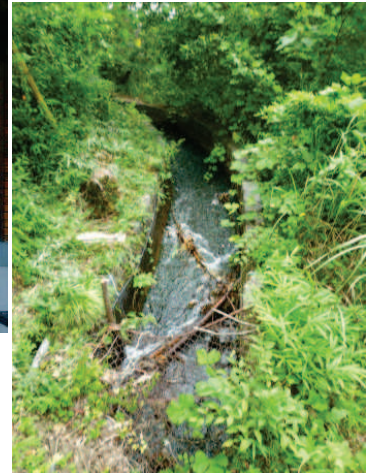
具体的には、県が実施した調査結果をもとに、高梁地域（一部、新見市）において、集落に密接する水路や下水道の放流設備などでの調査を実施し、高梁市、新見市と協議の上、その中から地域における効率的な利用の可能性について検討を行った。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 高梁市 新見市	事業の企画・実施 小水力発電適地調査への協力 小水力発電適地調査への協力

実施状況

H23. 8月に委託業者（中電技術コンサルタント）を選定し、高梁市・新見市と協議の上、調査を実施した。H23. 12月末に約50箇所の調査地点からの一次選定候補地（7地点）を選定し、年度末までに小水力発電設備を設置した場合の活用法等について協議を進めた。



成果・効果

調査の結果、いずれの地点も建設及び維持管理に要するコストと比べ発電量が小さすぎ、加えて、発電した電気を地域活性化事業として有効かつモデル的に活用する適当な手段が見いだせなかった。

今後の対応等

平成24年度は、有用であると認められた地点で小水力発電モデル事業を実施することとしていたが、上記理由により、今後の事業展開は困難であり、平成23年度末で当事業を終了する。

なお、小水力発電に係る調査結果については、関係機関に情報提供を行うこととする。

地域活力創出事業の実施状況 19

事業名

中山間地域支え合い安全安心推進事業
「地域における保健医療従事者育成支援事業」

事業の概要

離島や中山間地域の活性化と保健医療従事者の育成を図るため、県内の看護系大学の学生が笠岡諸島（北木島、白石島）に赴き、地域医療の現状を理解するとともに、住民とふれあいながら健康教育の実施など保健医療に関する体験を行った。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
岡山県立大学保健福祉学部 山陽学園大学看護学部	学生の島への派遣に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの策定と実践 ・実施結果の評価、まとめの作成 ・NPO、笠岡市関係課等との連携
NPO法人かさおか島づくり 海社	学生の受け入れに関すること <ul style="list-style-type: none"> ・住民への周知、島内の協力機関、住民の調整 ・学生と住民との交流会の開催
笠岡市	協働のまちづくり課 <ul style="list-style-type: none"> ・笠岡諸島のまちづくりの情報提供 ・NPO、島内の市役所出張所、公民館、関係団体等の調整 健康医療課 <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療に関する情報提供 ・関係団体（地元医療機関、岡山済生会病院、愛育委員、栄養委員等）の調整
備中局（備中保健所）	協働する各団体の連絡調整窓口

実施状況



成果・効果

- 1 事業実施後は、学生の島に対するイメージが、「みんな元気で、近隣同士の助け合いがある」など肯定的なイメージに変化した。事業を通して、離島の医療や福祉の現実を理解することができ、関心を持てた。
- 2 大学としては、住民と触れあいながら学べ、地域での看護の役割を寄り深く理解するための教育ツールとしては有効であると考えている。

来年度以降に向けての展開

島の活性化や大学の教育プログラムとするには継続的な取り組みが必要であり、引き続き笠岡諸島での事業は継続し、新たに管内で学生を派遣する地域を増やす。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 20

事業名

被害者の声を聴いてください ～シンポジウムとコンサート～

事業の概要

性被害者と支援員によるシンポジウムと、自らが被害者であるバンド「PANSAKU」によるライブ等を開催することにより、犯罪被害者の実態や支援について県民に啓発する。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
(社)被害者サポートセンターおかやま(VSCO)	シンポジウムとコンサートの実施(企画・立案、参加者募集、進行管理、事業遂行、ボランティアスタッフの募集、開催状況の記録)
備中県民局(協働推進室)	企画への助言、参加者募集への協力(チラシ・ポスターの配布、マスコミを活用した広報)

実施状況

- ・開催日時 平成23年10月23日(日) 13:30～16:00
- ・会場 高梁市文化交流館
- ・参加者数 約100名

【シンポジウム】

被害者自身による心の声と、被害者の置かれている立場や支援の現状について、4名のシンポジストが意見交換を行った。

- ・シンポジスト PANSAKU、被害者のT氏、VSCOの犯罪被害者支援員
- ・コーディネーター VSCO専務理事 森 洋子氏

※「PANSAKU」とは

メンバーの一人が性被害者であり、音楽活動を通じた被害者支援を全国で行っている2人組の女性歌手。

【コンサート】

PANSAKUによる、自らの体験を基にした歌などの音楽演奏とトーク。



シンポジウム



コンサート

会場となったホールの外では「いのちと魂のメッセージ展」を同時開催し、犯罪被害者や被害者遺族の方々によるメッセージや心の叫び等を綴ったパネルを展示した。



成果・効果

- 1 普段聞くことができない犯罪被害者の思いや、置かれている現状等を、被害者本人や、支援に携わっている人の生の言葉で伝え、また、難しいテーマではあるが、歌やトークといった柔らかい手段も使うことで、参加者が理解する上で助けになり、被害者支援に対する意識の高揚につなげることができた。
- 2 県内全域をエリアとするラジオ局による開催案内等、広報活動に力を入れた結果、参加者の居住地としては、高梁市内をはじめとする備中県民局管内のみならず、管外からの参加者も多数みられ、広く県民への啓発ができた。

来年度以降に向けての展開

24年4月1日から、全市町村で犯罪被害者支援に特化した条例が施行になるにともない、行政や警察等と協働した啓発イベントの開催や、支援員養成のための講座を開くなど、さらなる活動を行っていく。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 30

事業名

CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の実施

事業の概要

子どもたちの内なる力を「エンパワメント」し、自分を大切に思う「人権意識」を育てることで、子ども自身が暴力から身を守るスキルをつけるとともに、大人が子どもたちの安全を図り、暴力を許さない「コミュニティ」を造ることで、子どもたちが安心して生活できる地域社会を構築する事を目的とする。

（1）子どもワークショップ

ワークショップを行う中で、自分を大切に思う人権の意識を育て、子どもたちが本来持っている力をエンパワメントすることで、暴力から自分を守る具体的なスキルを身につける予防教育を行う。

（2）大人ワークショップ

子どもを取り巻く大人達に子どもをサポートする方法を伝え、子どもの人権を正しく理解することにより、児童虐待予防の一助とする。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
エンパワメントMOMO（モモ）	ワークショップの計画、実施、報告
備中県民局（健康福祉部）	関係機関への通知及び広報活動 開催にあたっての助言

実施状況

		ワーク数	実施回数	人数（延）
大人ワーク		6回	6回	89人
子どもワーク		24回	36回	651人
内訳	小学生	12回	12回	310人
	就学前	12回	24回	341人
合計		30回	42回	740人

※就学前ワークは2日に分けて実施。

※実施希望の申し込みを受けた後、実施希望団体と事前にワークのねらい、内容等の協議を行い、効果的なワーク開催に努めた。また、終了後は振り返りを行い、更なる効果的なワーク開催を目指した。

成果・効果

- (1) 平成21～22年度に井笠地域で活動を展開し、今回の事業により備中エリアに活動を広げることができた。
- (2) 人権の意識を育て、子どもたちの力をエンパワメントすることで、暴力から自分を守るスキルを身につける、ひいては児童虐待防止効果が期待できる。
- (3) 今回ワークショップを実施した保育園、幼稚園、小学校からは、子どもの人権擁護、虐待予防について認識が深まったと反響があった。機会があればもう一度依頼したいという声が出ている。



子どもワーク（就学前）



大人ワーク

来年度以降に向けての展開

- (1) 小学生、就学前等子どもワークの応募が多く、中高生のワークや大人ワークへは申し込みがない又は少ない状況であった。今後は実施団体のエンパワメントMOMOが今回の事業により拡大したネットワークをもとに、さらに周知をはかり活動を広げていく。
- (2) 今後は市町との協働実施を図ることで、継続的に地域に根ざした活動を展開していく。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 21

事業名

新見御殿町歴史探訪“まち歩き”と“土下座まつり拝観”そして“歴史講談”

事業の概要

新見の伝統文化の発信を目的に“まち歩き”で御殿町を案内し、新見の奇祭“土下座まつり拝観”の後、新見藩にまつわるエピソード・土下座まつりの由来・山田方谷の師、丸川松陰先生の逸話などを、“歴史講談”で紹介することで、地域の文化振興を図る。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
関重爾史会	まち歩き・土下座まつり拝観・歴史講談の実施（企画・立案、参加者募集、進行管理、事業遂行、開催状況の記録）
備中県民局（協働推進室）	企画への助言、参加者募集への協力（チラシ・ポスターの配布、マスコミを活用した広報）

実施状況

- 開催日時 平成23年10月15日（土）
- 会場 (1) まち歩き 新見市内 10:00～12:00
(2) 土下座まつり拝観 新見市内 13:30～14:20
(3) 歴史講談 新見御殿町センター 14:40～15:50
- 参加者数 (1)・(2) 59名
(3) 200名
- 内容 (1) まち歩き
2組に分かれて、「新見御殿町まち歩きガイドの会」による史跡案内



(2) 土下座まつり拝観

総勢64名からなる大名行列の拝観



(3) 歴史講談

新見藩にまつわるエピソード、山田方谷の師、丸川松陰先生の逸話などを歴史講談として紹介



成果・効果

様々な団体と協働して事業が実施されたため、本事業を通して、新見御殿町を核とするネットワークが広がった。

参加者については、市内外から男女問わず幅広い年齢層の参加が多数あり、地元住民への文化の継承という点のみならず、他地域へ新見地域特有の伝統文化を広く周知し、関心を持ってもらうための場を設けたという点でも、新見地域の文化振興が図られたといえる。

来年度以降に向けての展開

この事業を通してできたネットワークをさらに広げていくことで、新見地域における文化振興を一層図っていく。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 22

事業名

「備中玉島を綿で白くする」事業

事業の概要

地域の活性化を図るため、備中の伝統である玉島の町を綿で白くし、備中ブランドとして全国に備中綿の情報を発信することにより、来年度以降も、観光客の誘致に努めていくことを目的として、下記の事業を実施した。

- 1 玉島に綿を植えた。
- 2 綿の種を配布した。
- 3 綿の苗を配布した。
- 4 鑑賞会（8月27日）、収穫祭（9月18日）を行った。
- 5 玉島の小学校に綿を授業の一環として植えた。
- 6 写真展、発表会（11月13日）を行った。
- 7 綿の種詰めや苗の育成などの作業を障害者施設に外注した。
- 8 ホームページで玉島の綿を全国に情報発信した。

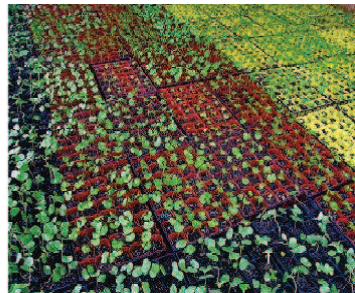
協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO法人備中玉島観光ガイド協会	・事業の広報、実施準備、実施 ・個々の事業の管理
備中県民局	・具体的な企画・実施に必要な支援

実施状況

1 植樹祭

円通寺の綿畑に約1,000本の綿を植えた。



植樹祭の様子

2 鑑賞会

玉島歴史民俗海洋資料館で綿繰り体験、ソーメン流しなど、円通寺の綿畑で鑑賞会を行った。児童館の子供たちが100人くらい来て、賑やかに開催した。



鑑賞会の様子

3 収穫祭

心配していた雨も無事に上がり、円通寺の綿畑で綿の摘み取りを行った。参加者は植樹祭で植えていた綿に白い綿毛を見つけるとうれしそうに摘んでいた。



収穫祭の様子

4 写真コンテスト表彰式・発表会

備中玉島の綿写真コンテストの表彰式を行った。どれも素晴らしい作品で審査に苦労した。その後、障害福祉施設・大樹玉島作業所、玉島南小学校、県立井原高校、NPO法人備中玉島観光ガイド協会がそれぞれの綿の取り組みについて発表した。



写真コンテスト表彰式・発表会の様子

成果・効果

・綿が玉島の町に広く浸透してきつつあり、地元の綿への関心が学校、事業所、ロータリークラブなどと急速に高まり、全国からもホームページなどで情報を得た観光客が玉島へたくさん訪れた。

- ・インターネットなどでの問い合わせが増大した。
- ・仕事を提供する身障者福祉施設を1施設から4施設に増やすことができ、単純作業だけでなく、糸紡ぎ、布つくりを開始した。
- ・東北支援用に支援NPO法人から10万粒の種の注文がきた。
- ・耕作放棄地に綿を今年の倍を植えた。

来年度以降に向けての展開

- ・観光客誘致に向け、綿を1,000本植える。
- ・小学校、事業所に綿の種を配布する。事業所には綿の種の協賛をお願いする。
- ・東日本大震災支援用に綿の種を10万粒送る。
- ・昨年に引き続き5,000本の綿苗を送る。
- ・植樹祭・鑑賞会・収穫祭をさらに多くの地元の方の参加で行う。
- ・備中地域で綿関連団体に参加していただき、「シンポジウム」を行う。
- ・身障者福祉施設を活用し、自立支援の一助を担う。
- ・綿花、綿製品を多く販売することで、より多くの観光客が増え、仕事が増え、耕作放棄地を利用できる大きな輪を完成させる。
- ・釉薬を陶芸で使用する。
- ・塩害研究で塩害対策支援を行う。

事業名

低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト

事業の概要

循環型社会、低炭素社会、自然共生社会を統合した持続可能な社会の構築など、都市・地域政策と一体となった地域型まちづくり貢献活動を行うことを目的とし、昨年度の成果や反省を踏まえ、に引き続き、ハッカとキビの栽培やその利活用について、様々な見地から具体的な取組や実験を行った。

具体的な事業としては、キビ殻の枕と食品及びその研究、ハッカ製品とハッカ苗などの研究及びハッカに関する諸情報を記載した小冊子の作成、講演会の開催を行った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
元倉敷未来計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の広報、実施準備、実施 ・ 個々の事業の進行管理
備中県民局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な企画・実施に必要な支援・機関との連絡調整

実施状況

(1) キビ製品の試作研究

昨年度に引き続き、枕とぬいぐるみの試作を実施した。



「きびの夢枕」として商標登録



ぬいぐるみの試作

- ・ 枕やぬいぐるみに入れる「キビ殻」が必要となるが、脱ぶが難しく、今年度は大量生産が非常に困難であった。また、天候不良(記録的猛暑)のため、キビ自体の収穫が思わしくなく、生産性の向上に向けて、多くの課題が明らかとなった。

(2) キビ・ハッカ食品の試作研究

昨年度に引き続き、枕とぬいぐるみの試作を実施した。



ハッカリキュール



ハッカジュースのラベル



キビの実パックの試作品

- ・ キビの「麺」については、県立高梁城南高校が授業等で試作、地域振興に活用したいとの申し出があり、ハッカについては、昨年度に引き続き、「ヨイキゲン」の協力が得られるなど、活動の継続、拡大が想定される。

(3) 講演会の開催

- ・ 日 時：平成24年2月25日(土)
- ・ 場 所：備中県民局会議棟
- ・ 参加者：20名
- ・ 講 師：七林養宣海(ななばやし よしうみ)氏 (AMA Japan代表取締役)

演題「エコ&オーガニックビジネスの可能性」

(内容) 山・河・海的环境保全が命の源であり、環境教育＝食育である。食パラダイムシフトの作成、持続可能な社会づくりと地域経済の活性化をめざし、小さなグループから「和文化」を取り戻すべく「倉敷環境プロジェクト」を薦めたい。



七林氏(講師)



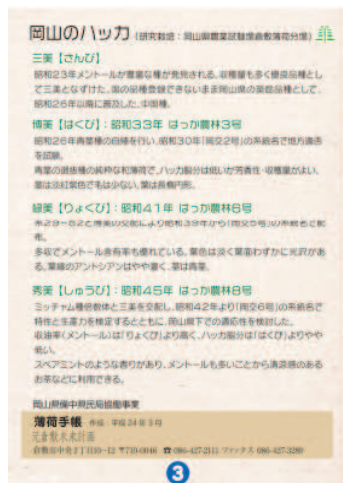
講演会の様子



意見交換会の様子

(4) ハッカマップ及び小冊子の作成

- 昭和40年代までは、岡山県はハッカの出荷量が全国第2位であったが、水島コンビナートの本格稼働や化学合成されたメントールの普及により、急速にハッカ農家が減少したという歴史があり、地域の伝統産業や文化の一つとして、身近な農業の大切さの普及のため小冊子を作成した。



「薄荷手帳」の一部（A2版 8つ折り）

(5) キビ及びハッカの耕作関係

①キビの栽培

- ・ 矢掛(農家1軒)、長船(農家8軒)、総社に栽培を依頼した。
- ・ 合計400kgのキビと、120kgのキビ殻を入手。
- ・ 収穫量としては猛暑と台風の影響により非常に悪かった。



キビの栽培の様子



(この後、台風により減収)

②ハッカの栽培

- ・ 矢掛、大島農園、県立興陽高校(ほ場を使用)にて栽培。



矢掛での栽培の様子



興陽高校での栽培の様子

成果・効果

- ・ 試作品も作成でき、「売れ筋商品化」を目指して専門家のアドバイスも受けるなど、概ね所期の目的を達成できた。
- ・ 耕作地の確保についても、事業の目的を理解し協力してくれる農家が出るなど、活動の広がりを含め、材料の確保等も前進していると考えます。

来年度以降に向けての展開

- ・ 成果を感じることができた一方で、製品の大量生産に向けての機械化や原材料(キビ、ハッカ)の安定的な確保に向けての課題も明らかとなり、その解消に向けた取組を行っていく。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 24

事業名

高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き

事業の概要

地域に根ざしているお年寄りを「まちの匠(先人)」として、その方々から知恵や技術、ものの考え方を「聞き書き」し、その匠なりの工夫や知恵、技術等が加わった「人生観」を高校生が聞き、文章として残し、若い世代に匠の心をつないでいく事業であり、高校生もお年寄りから話を聞く機会が少なくなっている中、その地域の文化・伝統を守り、継承していくきっかけとなることを目的とする。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
聞き書き実行委員会	事業の企画・立案、参加者募集、進行管理、事業遂行、ボランティアスタッフの募集、開催状況の記録
備中県民局(協働推進室)	企画への助言、参加者募集への協力(チラシ・ポスターの配布、マスコミを活用した広報)

実施状況

○参加高校及び生徒数 3校、16名が参加

○スケジュール

- ・ 6/6,7 「聞き書き」についての講義(研修会)
- ・ 7/25 インタビューの仕方についてのワークショップ
- ・ 8/19 映画「森聞き」上映会、トークセッション



- ・ 映画のチラシ
- ・ 上映会後のトークセッションは、県大の越川准教授と聞き書き体験者(福山市大1年原田さん)で実施

- ・ 8月～10月 「匠」に話を聞く、文章に書き起こす。



聞き書きをしている様子

- ・ 10/31 文章の構成と発表の方法について（研修会）
- ・ 12/20 「聞き書き」成果発表会



成果発表会の様子

- ・ 3/25 全国聞き書き甲子園に、矢掛高校生1名が参加

成果・効果

- 1 その地域の文化、伝統や技について、若い世代が伝承していくきっかけとなった。
- 2 高校生にとっては、お年寄りの話を正しく正確に聴くことで、相手を敬い、思いやる気持ちを醸成することができた。

来年度以降に向けての展開

一定の成果は得られたが、毎年、実施する生徒は替わっていくため、地道に活動を継続しつつ、参加者を増やす努力を行っていきたい。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 25

事業名

「みんなでつくる！高梁川流域のエコ指標」

事業の概要

高梁川流域での「流域圏」の考え方に基づいた環境保全活動の推進のために、地域の自然環境の状況を分かりやすく知るために、専門家を交えた「エコ指標」の作成を行う。同時に、エコ指標を活用した体験学習ツアーを実施するとともに、その手法をエコ指標「虎の巻」としてまとめる。来年度以降も、エコ指標を充実させることにより、地域内での環境意識の醸成の推進を目的として、下記の事業を実施する。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 公益財団法人 水島地域環境再生財団	補助金の交付 事業の企画立案・事業の実施 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた現場管理

実施状況

1) 専門家検討会の開催

エコ指標作成のため、専門家による検討会を2回実施した。

平成23年9月21日（水）10:00～12:00 アパホテル倉敷

平成24年2月 2日（木）14:30～16:30 アパホテル倉敷

○検討委員（4名）

NPO 法人ふれあいの里・高梁 理事長 小宮山節夫 氏

吉備国際大学短期大学部保健科 非常勤講師 福田富男氏（元県職員 水産関係）

倉敷市自然史博物館 主幹 狩山俊悟 氏

岡山県井原市立高等学校 教諭 坂本明弘 氏

2) 高梁川流域エコしらべツアーの実施

高梁川流域エコしらべツアー「親子で一緒にエコしらべ！」を2回実施した。

○平成23年11月23日（水・祝）森編 10:00～13:30

実施場所：高梁美しい森

講師：NPO 法人ふれあいの里・高梁 理事長 小宮山節夫 氏

参加者：12名

○平成23年12月17日（土）海編

実施場所：小与島

講師：吉備国際大学短期大学部保健科 非常勤講師 福田富男氏
岡山県井原市立高等学校 教諭 坂本明弘 氏
参加者：10名



成果・効果

専門的知識を持つ検討委員と協働しながらエコ指標を検討し、作成した。しかし、「高梁川流域」に特徴的で、なおかつ、子どもにもわかりやすい「エコ指標」にはならなかった。

指標（案）を用いたエコしらべツアーについても、アンケートでは分かりやすかったなどの意見も多かったが、実施時期が寒かったことや周知不足により、参加者が非常に少なく、エコ指標を使うモデル事業とは言い難いものであった。

来年度以降に向けての展開

平成23年度事業提案時には、エコ指標を4つ（海編・山編・大気（星）編・川編）を行うとの考えであったが、日程的に実施不可能と考え、2つ（海編・山編）に絞った経緯があることから、平成24年度は大気（星）編・川編で提案する。また、H23年度に作成した指標を用いたエコしらべツアーを再度開催し、評価結果のデータベース化を行うとのこと。

しかしながら、今年度の実施状況を勘案すると、来年度提案に当たっては、次の点を準備できた状況で提案を受けるべきと考える。

- ・高梁川流域で特徴的なエコ指標（案）がすでにあること
- ・無理のない実施スケジュールが計画されていること
- ・事業目的を明確にすること（エコ指標を作成することが提案理由であり、エコツアーを実施することが提案理由ではない。また、エコツアーのレジメは「エコ指標」ではないこと。）

協働事業提案募集採択事業の実施状況 26

事業名

GREEN DAY 2011 ～2011国際森林年と高梁川の持続的な環境保全活動宣言～

事業の概要

国連の定める国際森林年に、国際森林年国内事務局に協力し、高梁川流域の各地域の様々な環境保全活動の推進を通して、高梁川を流域共通の財産として、流域住民が協力して守り育てる意識を向上させるために、シンポジウムやイベント、エコハイキング等を実施するとともに、その成果をデータベース化し、次年度以降も高梁川流域の環境保全とその暮らしを守り育てるための啓発活動に努め、年間を通して高梁川のある生活を学び・考え・行動していく。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
GREENDAY実行委員会 備中県民局	事業の企画立案・実施 補助金の交付、関係機関への広報

実施状況

①シンポジウム〈集客数〉

- ・ 8月5日（金）GREEN DAYS COLLEGE開講式 倉敷物語館（倉敷市） 〈50名〉
- ・ 8月20日（土）GREEN DAYS COLLEGE in 総社 岡山県立大学（総社市） 〈60名〉
- ・ 9月17日（土）GREEN DAYS COLLEGE in 新見 きらめき広場（新見市） 〈70名〉
- ・ 10月9日（日）GREEN DAYS COLLEGE in 高梁 吉備国際大学（高梁市） 〈120名〉
- ・ 10月29日（土）GREEN DAYS COLLEGE in 白石島 白石公民館（笠岡市） 〈30名〉
- ・ 12月10日（土）GREEN DAYS COLLEGE in 倉敷 倉敷芸文館（倉敷市） 〈200名〉

②イベント・展示〈集客数〉

- ・ 9月17日、18日 GREEN DAYS COLLEGE in 新見（新見市） 〈500名〉
鯉が窪湿原エコツアー、パネル展示 ※高梁川源流エコツアーは中止。
- ・ 10月9日（日） GREEN DAYS COLLEGE in 高梁（高梁市） 〈50名〉
臥牛山エコハイキング
- ・ 12月11日（日） STOP温暖化くらしき2011（倉敷市）と共同 〈500名〉
高梁川今昔物語の写真展示、高梁川マルシェ（食のイベント）



GREEN DAYS COLLEGE開講式



倉敷会場でのシンポジウム



GREEN DAY 2011 ホームページURL <http://www.green-day.jp/gd2011/gd2011.html>

成果・効果

GREENDAYとしての高梁川流域全体でのこれまでの活動の総括を行い、地域特性に合わせたテーマでシンポジウムやフォーラム、エコハイキングを実施した。産学官から新規の参加者や意見が得られた。また、地元新聞やCATVなどにも大きく報道され、地域社会において活動の定着化も図ることができた。

高梁川流域の環境活動を実践している個人・団体・企業とのネットワークができ、次年度以降に続く体制づくりができた。GREENDAYホームページを立ち上げ、facebookを利用した、情報発信や情報共有、情報整理などを行い、参加者のネットワークの促進が図れることが期待される。また、GREENDAY活動目標と行動指針についての提案を行った。

「高梁川」をテーマに流域6会場で実施し、エリア的に広がりのある環境保全活動を実施し、シンポジウムやイベントをあわせて約1,500人の参加が得られた。

来年度以降に向けての展開

来年度は活動10年目に当たり高梁川流域の新流域宣言の策定を目標とする。また、活動範囲をより拡大し、産学官民、世代を超えて地域を学び、楽しみ、地域を愛する心を醸成し、地域課題解決に向けての実践につながるような活動としていくことを目標としている。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 27

事業名

「気づく つなぐ 地域で支える心の健康」
～うつ病 私たちができること～

事業の概要

新見地域は自殺率が高く自殺対策は地域の課題となっていることを強く認識し、うつ病予防を中心に、心の健康シンポジウムを開催し、一般市民に広く啓発した。

にいみフォーラム会員が核になり、各種団体と連携を取りながら地域で支援の輪を広げるための活動に努めた。シンポジウム開催後、うつ病の認識を深めるために、情報紙を作成し、共催団体等に配布して周知を図った。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
にいみフォーラム	シンポジウムの企画、参加者の参集、シンポジウム開催のスケジュールに添った事業の遂行。シンポジウムをまとめた情報誌の作成と関係機関への周知。
備北保健所新見支所	シンポジウム開催にあたっての助言。参加者募集への協力。事業成果を高めるため、各種団体と連携のとれた活動を行う。

実施状況

うつ病を正しく理解し地域で支え、早期発見、早期治療につながるよう、関係機関と協力しながら基調講演とパネルディスカッションからなる心の健康シンポジウムを開催し、普及啓発に努めた。

- 1) 関係者連絡会の開催 3回
- 2) 心の健康シンポジウムの開催
 - (1)日時：平成23年10月23日（日）
 - (2)場所：新見市哲多総合センター
 - (3)内容：基調講演「地域で命を支えよう」～うつ病を克服した私～
講師 watari 氏
パネルディスカッション
パネリスト：医療・行政・職域・地域の代表者

(4)参加人数：300人

3) 情報誌の作成

心の健康シンポジウムの内容をまとめ特集号として情報誌に掲載し、関係機関へ配布している。



成果・効果

様々な機関と協働して自殺対策を考えるシンポジウムを企画し、工夫を凝らしながら開催したことで新見地域全体での自殺予防への気運を高めた。

シンポジウム参加者から、うつ病に気づいたら専門医を受診することの大切さや温かい声かけ、見守りの必要性に気づいたという意見が多く聞かれた。また、相談機関へ「死にたい」との悩み事の相談があるなど、シンポジウムへ参加した人が相談するという効果が出ている。

さらに、住民が主体となって取り組んだことを契機に、地域関係者が集まって新見地域自殺対策連絡会を開催することができたり、平成24年度は市全体で自殺対策の普及啓発へ取り組む計画ができる等の広がりを見せている。

来年度以降に向けての展開

にいみフォーラムは男女共同参画社会づくりを推進する市民団体であり、ストレスがたまり、心のバランスを失う人々が増えている現代社会の中で、うつ病を予防し、自殺で無くなる人が一人でもいなくなるように早期発見のための啓発に努める一方で、うつ病の方に出会ったら専門機関へつなぐ等、地域の見守り者として、積極的に地域での活動を支援する。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 28

事業名

出張型集団一時預かりサポートネットワーク形成事業

事業の概要

乳幼児の出張一時預かりのサポートのできる人材を育成し、イベント・講演会等の会場での一時預かり事業のネットワークを形成するため、以下の取組を行う。

- ・出張型一時預かりサポーター養成講座の開催
- ・出張型一時預かりポータルサイトの立ち上げ
- ・出張型一時預かりサポーターの定期研修の開催
- ・出張型一時預かりの行政・団体・企業等への啓発・普及活動
- ・出張型一時預かりの実践

協働の主体・役割分担

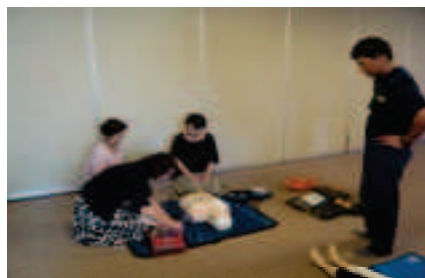
協働の主体	役割分担内容
特定非営利活動法人 ふれあいサポートちゃて いず	<ul style="list-style-type: none"> ・講座、研修の企画運営 ・ポータルサイトの製作 ・サポーターの認定、登録によるネットワーク形成
県民局（健康福祉部）	<ul style="list-style-type: none"> ・講座、研修の会場選定協力 ・講座、研修の広報、参加者募集への協力 ・地域の子育て支援者とのマッチング、補助金の交付等

実施状況

（1）出張型一時預かりサポーター養成講座の開催

- ①平成23年9月10日（土）、高梁総合福祉センター、受講者1名
- ②平成23年9月17日（土）、笠岡市市民活動支援センター、受講者3名
- ③平成23年9月18日（日）、備中県民局、受講者3名
- ④平成24年3月10日（土）、備中県民局

※講習内容：一時預かりサポーターの心得、事例紹介、緊急時の対応と乳幼児応急措置



- (2) 出張型一時預かりポータルサイトの立ち上げ
- (3) 出張型一時預かりサポーターの定期研修の開催
 - ・一時預かりの実地研修（平成23年11月28, 30日、12月1, 8日）



- (4) 出張型一時預かりの行政・団体・企業等への啓発・普及活動
 - ・パンフレット（5,000部）を作成・配布
- (5) 出張型一時預かりの実践
 - ・平成24年2月

成果・効果

事業実施を通して、一時預かりのできるサポーターとして、実施団体に10人が登録された。登録者（参加者）からは、「実地研修が大変参考になった。」、「子どもと関わる仕事ができて嬉しい。」、「講座を受けて意欲がわいた。」などの声が聞かれ、子育て支援に対する高い意欲が感じられた。

今後、県民局管内で実施される各種イベントの際、これらのサポーターの活躍により出張型一時預かりが実施され、子育て中の親が各種イベント等に気軽に参加できる環境が整うことが期待される。

来年度以降に向けての展開

出張型一時預かりの取組を広げるためにはサポーターの数を増やすことが不可欠であり、サポーターを育成するための講座を今後も引き続き実施したい。

また、出張型一時預かりを実施する機会を増加させるため、企業等へのシステムの普及啓発にも努めたい。

さらに、サポーターの質を高めるための研修も継続的に実施する予定である。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 29

事業名

虐待防止のための連続ワークショップ事業

事業の概要

少子化や核家族化が進んでいる現在、子育てに自信がなく、不安を感じている親の中には、自分を好きになれず、子どもに手をあげてしまう親もいる。連続ワークショップの開催を通じて、子育てを楽しむ親を増やすことを目的とする。

①「わたしだってほめられたい

～自分を好きになる 子育てがうれしくなるワークショップ～

(講師：NPO法人「自己尊重プラクティス協会」代表理事 手塚千砂子氏)

②「スター・ペアレンティング

～親と子どものよい関係をきずくために～

(講師：NPO法人女性と子どものエンパワメント関西 井山里美氏、竹下郁代氏)

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
特定非営利活動法人 子ども劇場笠岡センター	・ワークショップの企画・立案 ・参加者募集等ワークショップの実施
県民局（健康福祉部）	・ワークショップの企画・立案への協力 ・ワークショップの広報、参加者募集への協力 ・補助金の交付 等

実施状況

(1)「わたしだってほめられたい

～自分を好きになる 子育てがうれしくなるワークショップ～

(講師：NPO法人「自己尊重プラクティス協会」代表理事 手塚千砂子氏)

①平成23年11月28日（月）、総社市清音福祉センター、受講者17名

②平成23年11月29日（火）、新見市学术交流センター、受講者18名

③平成23年11月30日（水）、倉敷商工会議所、受講者14名

④平成23年12月1日（木）、サンライフ笠岡、受講者21名



(2) 「スター・ペアレンティング

～親と子どものよい関係をきずくために～

(講師：NPO法人女性と子どものエンパワメント関西 井山里美氏、竹下郁代氏)

- ①平成23年12月 5日 (月)、新見市学術交流センター、受講者16名
- ②平成23年12月 7日 (水)、備中県民局、受講者13名
- ③平成23年12月 8日 (木)、サンライフ笠岡、受講者22名
- ④平成23年12月12日 (月)、総社市清音福祉センター、受講者19名



成果・効果

参加者からは、「心が安定した。」、「気持ちが楽になり、子育ての悩みを解決していけそうだ。」、「しつけの方法に自信がなかったが、方法が明確に分かり、希望を見出すことができた。」、「参考になった。子どもに否定的ではなく、肯定的に接していけるよう努力したい。」などの声が聞かれ、ワークショップの受講を通じて、自分自身を認め、気持ちを楽にすることで、子育てにも前向きに取り組めるようになりつつある参加者の姿が伺える。

来年度以降に向けての展開

今回のワークショップの効果をより多くの人に享受してもらえるよう、他団体にもワークショップの開催を勧めるとともに、今回のワークショップのインストラクター養成講座を実施し、遠方から講師を招聘しなくても開催できる体制を整えたい。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 30

事業名

CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の実施

事業の概要

子どもたちの内なる力を「エンパワメント」し、自分を大切に思う「人権意識」を育てることで、子ども自身が暴力から身を守るスキルをつけるとともに、大人が子どもたちの安全を図り、暴力を許さない「コミュニティ」を造ることで、子どもたちが安心して生活できる地域社会を構築する事を目的とする。

（1）子どもワークショップ

ワークショップを行う中で、自分を大切に思う人権の意識を育て、子どもたちが本来持っている力をエンパワメントすることで、暴力から自分を守る具体的なスキルを身につける予防教育を行う。

（2）大人ワークショップ

子どもを取り巻く大人達に子どもをサポートする方法を伝え、子どもの人権を正しく理解することにより、児童虐待予防の一助とする。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
エンパワメントMOMO（モモ）	ワークショップの計画、実施、報告
備中県民局（健康福祉部）	関係機関への通知及び広報活動 開催にあたっての助言

実施状況

	ワーク数	実施回数	人数（延）
大人ワーク	6回	6回	89人
子どもワーク	24回	36回	651人
内訳	小学生	12回	310人
	就学前	12回	341人
合計	30回	42回	740人

※就学前ワークは2日に分けて実施。

※実施希望の申し込みを受けた後、実施希望団体と事前にワークのねらい、内容等の協議を行い、効果的なワーク開催に努めた。また、終了後は振り返りを行い、更なる効果的なワーク開催を目指した。

成果・効果

- (1) 平成21～22年度に井笠地域で活動を展開し、今回の事業により備中エリアに活動を広げることができた。
- (2) 人権の意識を育て、子どもたちの力をエンパワメントすることで、暴力から自分を守るスキルを身につける、ひいては児童虐待防止効果が期待できる。
- (3) 今回ワークショップを実施した保育園、幼稚園、小学校からは、子どもの人権擁護、虐待予防について認識が深まったと反響があった。機会があればもう一度依頼したいという声が出ている。



子どもワーク（就学前）



大人ワーク

来年度以降に向けての展開

- (1) 小学生、就学前等子どもワークの応募が多く、中高生のワークや大人ワークへは申し込みがない又は少ない状況であった。今後は実施団体のエンパワメントMOMOが今回の事業により拡大したネットワークをもとに、さらに周知をはかり活動を広げていく。
- (2) 今後は市町との協働実施を図ることで、継続的に地域に根ざした活動を展開していく。